

第3期 緑区地域福祉保健計画

みどりのわ
ささえ愛
プラン

令和2年度 推進状況報告書



令和3年3月

横浜市緑区役所 横浜市緑区社会福祉協議会

緑区地域ケアプラザ・地域包括支援センター

第3期緑区地域福祉保健計画 「みどりのわ・ささえ愛プラン」 推進状況報告書

活用の仕方



第3期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」は、各地区の特徴を踏まえた「地区別計画」、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等が地域と協働し取り組む「区域計画」、さらに、それらを総括する基本的指針である「全体計画」で構成されています。

地域の課題解決に向け、区民・事業者・行政が協働して計画を推進していますが、その概要を年度毎に「推進状況報告書」としてまとめ、冊子を発行しています。



1 計画の概要を知りたい！

- 「第1章 計画の概要」をご参照ください

緑区の地域福祉保健計画の経過や計画の内容、特徴や、年度に取り組んだ事業などを紹介しています。



2 自分の住んでいる地域の取組を知りたい！

- 「第2章 地区別計画」をご参照ください

区内11地区それぞれの概況や人口データ、地区の取組などをまとめています。

- 他の地区の取組も参考になります



3 緑区全体の取組や推進状況について知りたい！

- 「第3章 区域計画」をご参照ください

「地区別計画」の取組支援を目的とした「地区支援目標」と、区域での必要な取組として選定した「6つの重点テーマと目標」で構成される「区域計画」の主な取組などを紹介しています。



4 他にどんな情報が載っていますか？

- 「参考」ページに地域ケアプラザの一覧をのせています。

福祉や保健に関することや、地域活動に関する情報提供などをしていいる身近な施設としてご利用ください。

令和2年度 推進状況報告書

目次



第1章 計画の概要

1	地域福祉保健計画とは	1
2	緑区地域福祉保健計画	1
3	第3期計画の内容と特徴	4
4	第3期計画の推進と第4期計画の策定に向けた取組について	7

第2章 地区別計画

「地区別計画」の推進について		10
東本郷地区	地域と主な取組	11
鴨居地区	地域と主な取組	13
竹山地区	地域と主な取組	15
白山地区	地域と主な取組	17
新治中部地区	地域と主な取組	19
三保地区	地域と主な取組	21
山下地区	地域と主な取組	23
新治西部地区	地域と主な取組	25
十日市場団地地区	地域と主な取組	27
霧が丘地区	地域と主な取組	29
長津田地区	地域と主な取組	31

第3章 区域計画

「区域計画」の推進について		33
地域ケアプラザについて		61
東本郷地域ケアプラザ		61
鴨居地域ケアプラザ		62
中山地域ケアプラザ		62
地域包括支援センターふじ寿か園		63
十日市場地域ケアプラザ		63
霧が丘地域ケアプラザ		64
長津田地域ケアプラザ		64
緑区社会福祉協議会の主な取組		65
緑区役所の主な取組		67
●＜参考＞地域ケアプラザ		69

(表紙中面) 推進状況報告書 活用の仕方

(裏表紙中面) 編集・発行者

第1章 計画の概要

1 地域福祉保健計画とは

地域福祉保健計画は、誰もが身近な地域で安心して暮らせるまちをつくるため、地域の福祉保健を推進するための基本理念や課題を明らかにし、課題解決に向け、市民・事業者・行政が協働で取り組む計画で、社会福祉法第107条に基づきます。

横浜市には、市全体の計画である市地域福祉保健計画（以下「市計画」という。）と、区ごとに策定する区地域福祉保健計画（以下「区計画」という。）があります。

また、地域福祉の推進を目指し、地域住民・福祉保健等の関係団体や事業者等が地域で主体的に進めていく計画として、社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画があります。

それぞれの計画は相互に補完・連携し、役割分担をしていくものであることから、横浜市では、地域にわかりやすい計画となるよう策定のプロセスを共有し、整合性のとれた1つの計画として一体的に策定しています。これにより、行政や市民、地域福祉活動団体、ボランティア、事業所などの地域にかかわる方々にとって、より協働しやすく、より実効性のある計画となることを目指しています。

2 緑区の地域福祉保健計画

(1) 第1期計画（平成18～22年度）

緑区では、平成16年度策定の「市計画」を受け、「みどりのわ・ささえ愛プラン」第1期計画を平成18年1月に策定しました。

策定にあたっては、区内11連合自治会単位で地区別意見交換会を3回ずつ開催しました。また、分野別団体別インタビュー、区民アンケートを実施し、そこで出されたさまざまな意見を、「つながり」「人材・担い手」「機会・場」「情報」「安心・安全・健康」の5つのキーワードに分類し、各団体の代表者や公募委員、学識経験者で構成する策定委員会で検討を進めました。

そして、計画の基本理念と、上記のキーワードを核とした5つの基本目標などを設定しました。



●第1期計画の基本理念と基本目標

基本理念 誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして

～一人ひとりが主役・共に支えあうまちづくり～

基本目標1 地域での「つながり」を大切にするまちづくり（キーワード：つながり）

基本目標2 「一人ひとりの力」が発揮できるまちづくり（キーワード：人材・担い手）

基本目標3 みんなが活動できる「機会・場」のあるまちづくり（キーワード：機会・場）

基本目標4 必要な「情報」が入手しやすいまちづくり（キーワード：情報）

基本目標5 「安心・安全・健康」のまちづくり（キーワード：安心・安全・健康）

(2) 第2期計画（平成23～27年度）

第1期計画の振り返り等を踏まえ、区内11地区の実状や地域の特色を活かし、区民と協働で策定する「地区別計画」と、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等が地域と協働し、緑区全体で取り組む「区計画」の2つで構成することとしました。

この第2期計画は、日常生活に関連した課題などに対する地域の取組計画をまとめた「地区別計画」と、地域を越える課題や、近隣では対応しにくく区全体を対象とした課題、地域の取組を支援する計画などをまとめた「区計画」とが互いに連動することで、より有効な計画となっています。

① 地区別計画策定の経過

■地区別計画策定委員会の立ち上げ・委員会の開催

「地区別計画」を区内 11 連合自治会・地区社会福祉協議会を単位として策定することとし、地区別計画の策定等を中心となって進める「推進母体」としての役割をもつ「地区別計画策定委員会」を、各連合自治会を中心に順次立ち上げました。委員会は、連合自治会、地区社会福祉協議会（以下、「地区社協」という。）、民生委員・児童委員、保健活動推進員、地域の活動団体の代表者などの方々に構成され、区内 11 地区で延べ 32 回の委員会を開催し、延べ 450 人の方々が参加して、検討を重ねました。

また、地区別計画策定に向けた委員会の開催主旨や、今後のスケジュールの説明、各地区の取組内容などの情報交換などを行うことを目的に「地区別計画策定連絡会」を4回開催しました。



■地区支援チームの設置

地区別計画策定に向けて、区役所、区社会福祉協議会（以下「区社協」という。）、地域ケアプラザ等で構成される「地区支援チーム」を地区ごとに設置しました。

地区支援チームは、「地区別計画策定委員会」の計画策定を支援するとともに、情報交換や課題の共有など計画推進の土台を構築しました。

■みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会からの提言等

「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」では、「地区別計画策定委員会」の検討状況の報告を受け、地区別計画の策定に向けた提言や進捗管理を行いました。

② 区計画策定の経過

第2期となる区計画の策定にあたっては学識経験者や自治会、地区社協などの方々に構成される「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」を開催し、検討を行いました。その結果、第1期計画の基本的な考え方を継承し、基本理念と基本目標を再定義したうえで、「目指す姿」を追加することとしました。

●第2期計画の基本理念と基本目標

- 基本理念** 誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして
～一人ひとりが主役・共に支えあう つながりのあるまちづくり～
- 基本目標1** 地域での「つながり」のあるまちづくり（キーワード：つながり）
- 基本目標2** 「一人ひとりの力」が発揮できるまちづくり（キーワード：人材・担い手）
- 基本目標3** みんなが活動できる「機会・場」のあるまちづくり（キーワード：機会・場）
- 基本目標4** 必要な「情報」が入手しやすいまちづくり（キーワード：情報）
- 基本目標5** 「安全・安心・健康」のまちづくり（キーワード：安全・安心・健康）

③ 第2期計画の振り返り

※下線部分について第1期計画より変更しました。

■地区別計画の振り返り

各地区別計画推進策定委員会において、年度ごとに地区別計画の振り返りを行いました。平成 26 年度に第2期計画の中間振り返りを、平成 27 年度には第2期計画 5 か年を振り返りました。

■区計画の振り返り

「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」にて、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等が実施した取組等について、定期的に振り返りを行いました。振り返りを行うなかで、今後取り組んでいくべき方向性について提言がありました。

■「みどりのわ・ささえ愛プラン推進状況報告書」の発行

地区別計画・区計画について「推進状況報告書」を毎年度発行し、推進状況を確認しました。

④ 第3期計画策定の経過

■地区別計画策定

平成26年度から、第3期計画に向けた「地区別計画推進策定委員会」が各地区で開催され、第2期地区別計画の推進に加え、第3期地区別計画に向けた課題や取組について意見交換が行われました。

■区計画（全体計画・区域計画）策定

「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」が地区別計画を含めた第2期計画での取組状況を把握して振り返りつつ、平成26年度からは、第3期計画の策定に向けた検討も行ってきました。

■第3期計画策定に向けた取組

第3期計画策定に向け、区全域の福祉保健にかかる現状や課題、ニーズ等を把握するため、平成26年度に「区民アンケート」及び「分野別・団体別グループインタビュー」を実施しました。

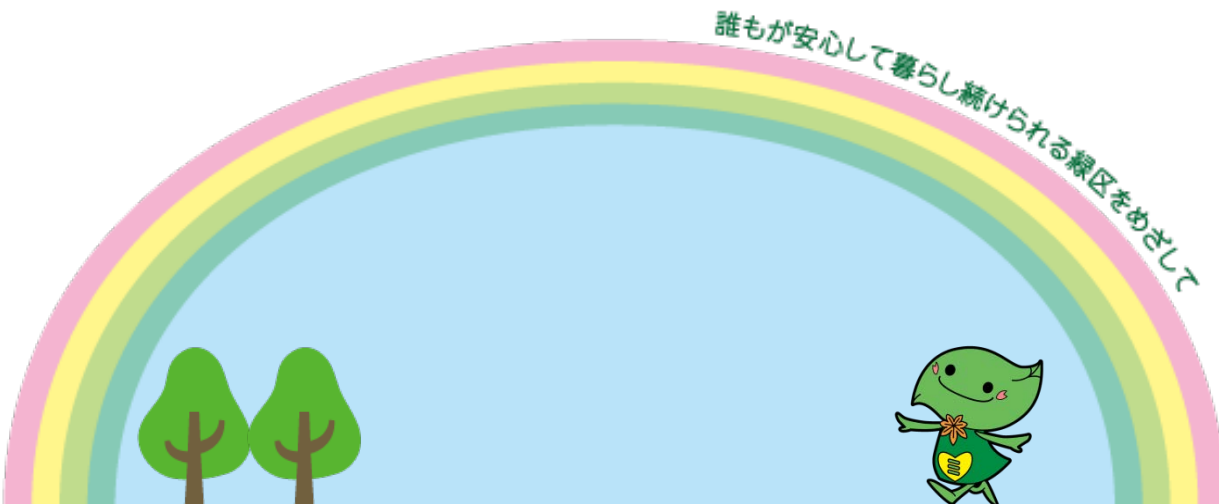
「地区別計画推進策定委員会」や「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」において、その結果を踏まえながら、第3期計画策定に向けた話し合いを行いました。

■みどりのわカフェの開催

第3期計画素案公表期間内には、第2期計画のこれまでの取組と、第3期計画素案を周知するとともに素案への意見募集のために、PRイベント「みどりのわ・Café」を「緑区市民活動支援センターみどりーむ」で開催しました。



<「みどりのわ・Café」の様子>



3 第3期計画の内容と特徴

(1) 基本理念・基本目標の継承

第1期計画から「基本目標」として掲げている「つながり」「人材・担い手」「機会・場」「情報」「安全・安心・健康」の5つのテーマについては、福祉保健施策に必要な要素であることから、第3期計画においても、「基本理念」とともに計画全体の総合的な指針として継承することとしました。

(2) 計画構成の見直しと「区域計画」の設定

■区計画・地区別計画の関係性

地域での日常生活の課題や取組をまとめた「地区別計画」と、その中で抽出された、区全体を対象とした課題や地域での活動を支援する取組などをまとめた「区計画」が、互いに連動することでより有効な計画となっています。

■第2期計画の区計画の課題

第2期計画を推進していくなかで、次のような点が課題として挙げられるようになりました。

- 第2期計画の「区計画」で提示した「具体的な取組」は、個々の事業や取組の内容が抽象的になり、計画の推進状況などを確認することが難しい。
- 取組主体となる、地域・区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ（地域包括支援センター）などが、それぞれ個別に取り組み内容となっていたため、連携・協働した取組が見えづらい。
- 地区に共通する課題への取組や「地区別計画」を支援するための仕組みづくりなど、「区計画」に期待される役割も大きくなっている。

■区計画から「区域計画」へ

第2期計画から「地区別計画」が加わり、「基本目標」は、「区計画」と「地区別計画」の両方にかかる目標として設定されましたが、第1期計画の「基本目標」＝「区計画」（計画全般）の色合いが強く残っていました。そこで、第3期計画においては、計画全般を「全体計画」、区計画を「区域計画」とし、「地区別計画」も含め、構成の見直しを行いました。

(3) 区域計画の地区支援目標及び重点テーマの設定

■地区支援目標について

第2期計画を推進していくなかで、「基本目標」に応じた各種取組と並行して、各地区で着実に推進されている「地区別計画」の充実や広がりが期待されるようになりました。

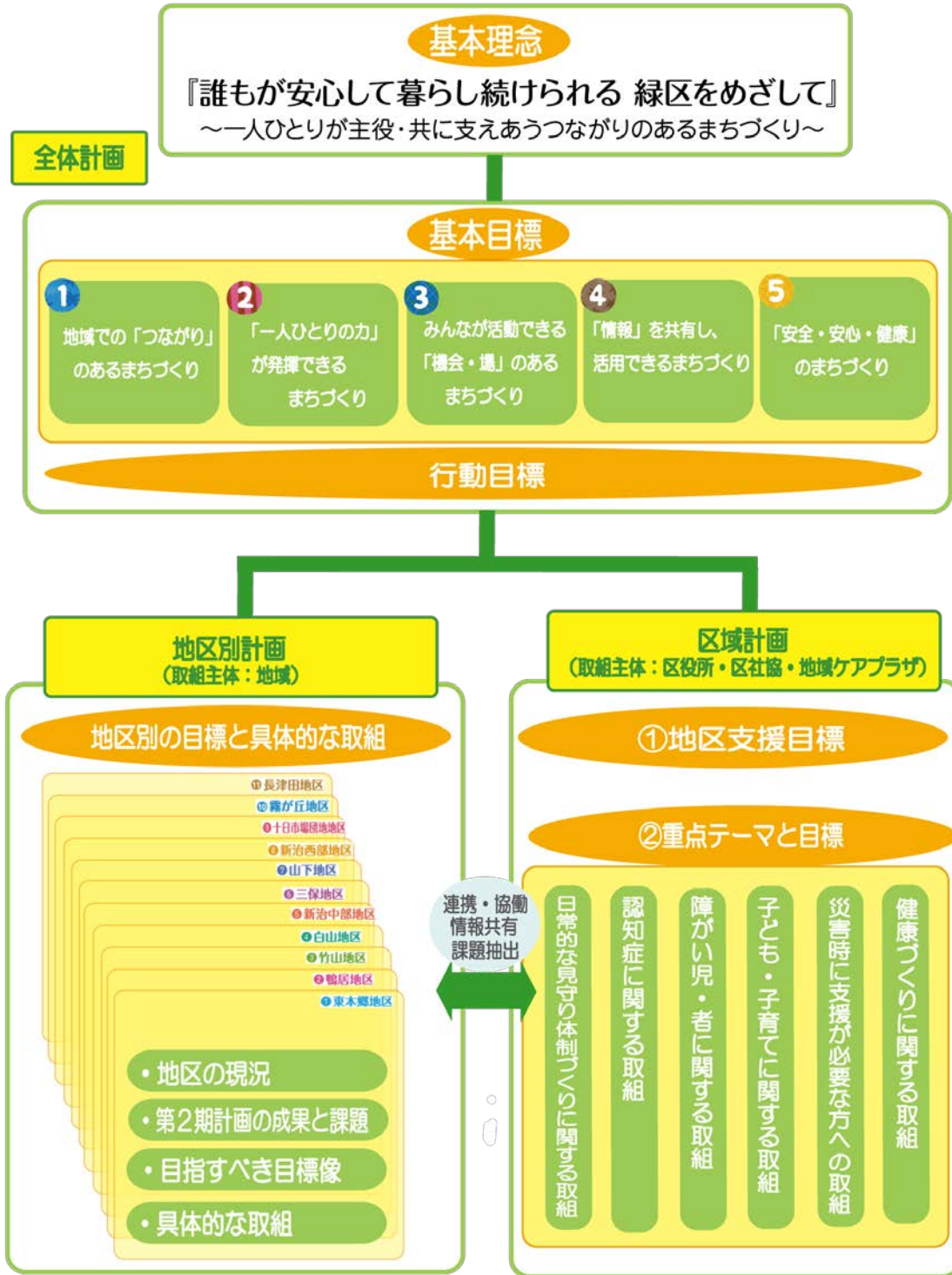
そこで、「地区別計画」の取組への支援を強化するとともに、他地区に広がるきっかけづくりや情報共有を進めることを目指し、「区域計画」に「地区支援目標」を設定しました。

■区域計画の重点テーマについて

第3期計画をより実践的な計画とすることを目指し、

「区民アンケート」や「分野別・団体別グループインタビュー」を踏まえて、重点的な課題を抽出し、そのテーマに沿った目標と具体的な取組を設けました。この「重点テーマと目標」を「区域計画」に設定することで、計画の方向性や推進状況の把握・進行管理をより明確にすることができます。

<第3期みどりのわ・ささえ愛プラン 概要>



「地区別計画」の特徴

区内の11 連合自治会・地区社協単位で開催される「地区別計画推進策定委員会」（以下、地区別委員会という。）が中心となって、各地区の特徴を活かした「地区別計画」を策定しています。第3期「地区別計画」は、平成28年度からの5か年間に行う、それぞれの地区の特徴をふまえた各種の目標と、地域課題の解決のための具体的な取組をまとめています。

「区域計画」の特徴

「地区別計画」の取組支援と他地区に取組を広げるきっかけづくり等を推進する「地区支援目標」と重点的なテーマに沿った事業ベースの具体的な取組をまとめた「重点テーマと目標」で構成されています。実現に向け、区役所、区社会福祉協議会及び地域ケアプラザ等が、地域や関係団体・事業者などと協働で取り組んでいきます。

●区域計画

＜地区支援目標＞

目標1	地域での「つながり」づくりの取組を支援し、ともに推進しながら、他の地域へも取組を広げていきます！＜つながり＞
目標2	多くの人が地域で活躍でき、地域活動が広がっていくことを目指し、地区の支援やコーディネートを行います！＜人材・担い手＞
目標3	より身近な地域で活動できるよう、地域活動における「機会」「場」に関するノウハウを共有し、活用します！＜機会・場＞
目標4	地域情報を共有・活用できる体制づくりをすすめます！＜情報＞
目標5	地域の取組を共有するとともに、活動の広がりを意識しながら継続して取り組めるよう、支援を行います！＜安全・安心・健康＞

＜重点テーマと目標＞

テーマ①

日常的な見守り体制づくりに関する取組

目標

- (1) 見守りが必要な人への地域でのゆるやかな見守り体制づくりを支援します
- (2) 関係機関・団体・事業者等の連携を深め、組織を超えて情報共有ができる体制づくりをすすめます

テーマ②

認知症に関する取組

目標

- (1) 認知症の人とその家族が地域で安心して暮らせるよう、認知症に関する普及啓発の取組をすすめます
- (2) 身近な地域を一步出ても、気づきの目があるネットワークづくりをすすめます

テーマ③

障がい児・者に関する取組

目標

- (1) 障がい児・者が必要な支援を受けることができ、より積極的に身近な地域活動へ参加できることを目指します
- (2) 障がいに関する理解を広めるとともに共に支える人を増やし、組織的に活動できる体制づくりをします

テーマ④

子ども・子育てに関する取組

目標

- (1) 生まれる前から学齢期まで、切れ目のない子ども・子育て支援をすすめます
- (2) 児童虐待防止に向けた取組をすすめます

テーマ⑤

災害時に支援が必要な方への取組

目標

- (1) 災害時の支援が円滑にできるような仕組みづくりをすすめます
- (2) 災害時に支援が必要な人と周囲の住民の顔の見える関係づくりを支援します

テーマ⑥

健康づくりに関する取組

目標

- (1) ライフステージに応じた健康づくりに関する取組をすすめます
- (2) 健康で充実した生活を送れるよう、活躍できる機会・場づくりを支援します

4 第3期計画の推進と第4期計画の策定に向けた取組について

(1) 第3期計画（平成28～令和2年度）の推進

第3期計画では、「みどりのわ・ささえ愛プラン」の基本理念である「共に支えあう つながりのあるまちづくり」の実現に向けて、第2期計画での取組を充実・発展することを目指して取り組みます。

また、令和元年度から「地区別計画推進策定委員会」「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」と名称を変更し、第4期計画（令和3～7年度）の策定に向けた検討も行っています。

※今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止しました。

①「地区別計画」の推進について

地区別計画に掲げられた各目標の実現を目指し、「地区別計画推進策定委員会」が中心となり、地域課題の解決に向けた取組を行うとともに、地域福祉保健の推進にかかる各種の情報の共有や意見交換や振返りを行います。

また、推進にあたっては、地域住民が主体となって推進していけるよう、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等の職員で構成する「地区支援チーム」が引き続き支援します。

②「区域計画」の推進について

第1期・第2期計画に引き続き、「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」が、第3期計画で掲げた「地区支援目標」及び「重点テーマと目標」を中心に取組状況の把握や振返りを行います。

また、「地区別計画」の推進に向けた助言等を行うとともに、各地区が共通で抱える課題や地区の先進的な取組の拡充を目指し、「区域計画」との連動に向けた提案等を行います。

<第3期 推進体制イメージ>



(2) 令和2年度の推進策定スケジュール

令和2年度は第3期計画の推進5年目として、第3期計画の推進とともに、第4期計画の策定に向けて検討を進める予定でした。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況に鑑み、第4期計画の策定は令和3年度に行うことと見直しました。

一方、感染予防対策をしっかりと行い、地域が主体となり継続的に行っている活動もあり、コロナ禍の中でも地区別計画の推進となる取組が行われています。

(3) 「地区別計画推進費」の活用

平成24年度から、地域が主体的に行う課題解決に向けた活動等を支援するための「地区別計画推進費」を各地区で活用しています。地区別計画推進策定委員会において具体的な活用策と取組内容を検討しており、地区別計画の推進の一助となっています。

●動画の常時放映

第3期計画の周知を図るため、初年度に作成したPR動画を多くの方に視聴いただけるよう、区役所1階のイベントスペースで常時放映を行っています。

あわせて、地区別リーフレットについても配架し地区別計画の周知に努めました。

<区役所1階での動画常時放映>



●第4期計画策定に向けて

令和3年度から始まる第4期緑区みどりのわ・ささえ愛プランは、第3期計画から体系図を見直します。区域計画の構成として「地区別計画を支える取組」、「区域全体での取組」を定めるなど、取組内容を分かりやすくする予定です。



第2章 地区別計画

● 「地区別計画」の推進について

(1) 地区別計画推進策定委員会について

地区別計画に掲げられた各目標の実現を目指しつつ、第3期計画推進にむけた意見交換を活発に行う「地区別計画推進策定委員会」（以下、「地区別委員会」という。）が開催されています。委員は、連合自治会、地区社協、民生委員・児童委員、保健活動推進員、地域の活動団体の代表者など、地区の実状に合わせて組織されています。

既に地域では、自治会活動を中心にさまざまな活動が行われています。担い手の確保や世代間の連携などの共通課題を解決するとともに、これまでの地域活動を継続し、団体間の連携体制をより強化することなどが求められています。地区別委員会では、そうした地域課題の解決に向けた取組を行うとともに、計画の推進に係る各種情報の共有や意見交換を行い、地区別計画の目標に向けた地域の取組状況の把握や振り返りを行います。地区別委員会は、例年各地区の実状に応じて年間2～10回開催されています。

しかし今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響のため、多くの地区で開催を見合わせました。

(2) 地区支援チームについて

緑区では、区役所の運営責任職・保健師や社会福祉職、区社協責任職・職員、地域ケアプラザの所長・地域活動交流コーディネーター・生活支援コーディネーター・地域包括支援センター職員（社会福祉士、主任ケアマネジャー、保健師等）で構成される「地区支援チーム」が地区ごとに編成されています。そして、「地区支援チーム会議」を毎月開催し、チームメンバーが日常業務の中で把握した地域の情報や、地域展開している事業の情報、そこから分析した地域の課題などを共有し、解決策や取組について検討しています。こうして、住民主体の地区別計画の推進に向けた地域の取組支援、地区別委員会や地域住民の活動支援をしています。

(3) 地区別計画推進策定委員会連絡会の開催

地区別委員会の委員長、地区支援チームのチームリーダーなどが参加する「地区別計画推進策定委員会連絡会」を8月に開催しました。地区別委員会の開催状況やスケジュールの説明、各地区の取組内容などの情報交換・意見交換などを行いました。

(4) 地区別計画推進に向けた各種制度の活用

地区別計画推進に向けて、区役所・区社協等による事業費補助制度を活用しています。平成24年度から継続している「地区別計画推進費（→P.8参照）」とあわせ、さまざまな補助金等の制度を活用し、地域住民の主体的な取組による地区別計画がさらに推進していくことを目指しています。

東本郷地区

東本郷地区別計画推進策定委員会

地域 東本郷 1～6丁目、東本郷町

緑区の東端に位置し、地区の東側は港北区、南側は神奈川区、北側は都筑区に隣接しています。北側は平野が広がり一部は農地となっていますが、南側は台地となっており、昭和40年代からの計画的な宅地開発により、戸建てや集合住宅の集まる住宅地となっています。

坂道が多く、最寄りの鴨居駅まで距離がある地域もありますが、平成19年3月に住民の要望によりミニバスが開通し、多くの住民に利用されています。

<主な関連施設>

最寄駅：鴨居駅（JR横浜線）

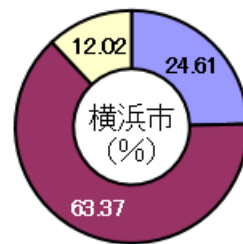
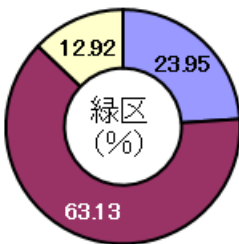
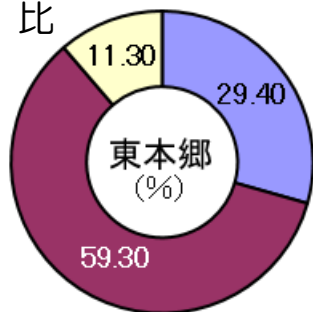
震災時避難場所（地域防災拠点）：東本郷小学校、東鴨居中学校（鴨居地区と共有）

地域ケアプラザ等：横浜市東本郷地域ケアプラザ

<年齢区分別人口>

令和2年(2020年)9月末

人口比



75歳～	2,122人
65～74歳	1,565人
15～64歳	7,438人
6～14歳	920人
0～5歳	497人
合計	12,542人

75歳～	22,712人
65～74歳	20,888人
15～64歳	114,899人
6～14歳	14,744人
0～5歳	8,770人
合計	182,013人

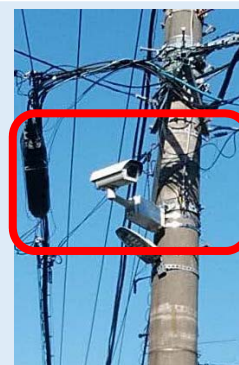
75歳～	481,787人
65～74歳	443,753人
15～64歳	2,382,859人
6～14歳	282,869人
0～5歳	169,204人
合計	3,760,472人

東本郷地区 地区別計画

- 目標1 地域の人達がつながり、支え合い、一緒につどい楽しみを共有できるまち
- 目標2 色々な世代の人が地域活動やボランティアに参加しているまち
- 目標3 地域情報が行き渡り、地域全体で支援が必要な人を見守るまち
- 目標4 身近な所で健康づくりができ、いつまでも健康に過ごすことができるまち
- 目標5 地域全体で防犯・防災に向け取り組み、安全・安心に暮らせるまち

～令和2年度の実施～

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止を徹底しながらの計画推進が最重点課題となりました。皆さんで知恵を出し合い、工夫をし、自治会や社会福祉協議会のニュース発行、ホームページや回覧、掲示板による情報発信と提供、ラジオ体操や体操講座などによる健康づくり活動、特殊詐欺防止や地域防災拠点などの防災訓練等による防災・防犯などへの取組は、継続して実施することができました。特に東本郷地区では、初めてとなる防犯カメラ設置も行いました。



防犯カメラの設置

一方、不特定多数の方が一堂に集うことが難しい状況の中、地域のつながりづくりを象徴する取組である「ひがほん郷まつり」や、「盆踊り」「夏まつり」などの活動は、中止をせざるを得ませんでした。

しかしながら、1月には十分な感染拡大防止（受付にて名前を記入、検温、手指消毒の後、会場入場）を、徹底した上で、鶴見川河川敷にて「どんど焼き」を実施することができました。

晴天に恵まれた中、正月各家庭で年神様として、迎え入れた門松等を使い、くみ上げられたやぐらに火が入れると、炎はたちまち、高く、高く燃え上がりました。皆さん、その火を見つめながら、思い思いに無病息災などを願われておられました。

また、地区社会福祉協議会では、「フードドライブ」を実施、コロナ禍の中で、必要な人に必要な食材を届けるための活動にも取り組みました。



鴨居地区

鴨居地区別計画推進策定委員会

地域 鴨居 1～7丁目、鴨居町

緑区の東側に位置し、地区の北側に鶴見川を挟んで都筑区、南側は神奈川区、保土ヶ谷区に隣接する南北に長い地区です。地区北部には鴨居駅があり、駅を中心に商店街、医療機関が密集しており、南側には丘陵状に住宅地が広がっています。駅周辺は平地ですが、他は起伏に富む地形となっています。地域ケアプラザをはじめ、障がい者の地域作業所、通所施設など福祉施設が多くあります。

<主な関連施設>

最寄駅：鴨居駅（JR横浜線）

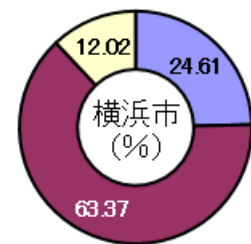
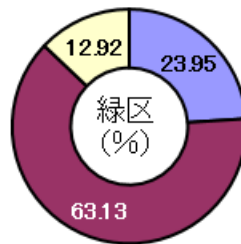
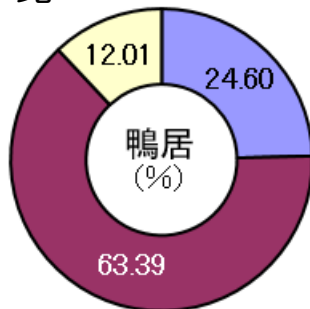
震災時避難場所（地域防災拠点）：鴨居小学校、緑小学校、東鴨居中学校（東本郷地区と共有）

地域ケアプラザ等：横浜市鴨居地域ケアプラザ

<年齢区分別人口>

令和2年(2020年)9月末

人口比



75歳～	1,951人
65～74歳	1,925人
15～64歳	9,986人
6～14歳	1,125人
0～5歳	767人
合計	15,754人

75歳～	22,712人
65～74歳	20,888人
15～64歳	114,899人
6～14歳	14,744人
0～5歳	8,770人
合計	182,013人

75歳～	481,787人
65～74歳	443,753人
15～64歳	2,382,859人
6～14歳	282,869人
0～5歳	169,204人
合計	3,760,472人

鴨居地区 地区別計画

目標1 「『安全・安心・健康』のまちづくり」のために

目標2 地域での『つながり』を大切にし、地域における後継者を育成するために

～令和2年度の取組～

《コロナ禍でも地域での『つながり』を大切に…》

いきいきサロン鴨居が10周年

2010年9月に始まった「いきいきサロン鴨居」が10周年を迎えました。地域の高齢者が気軽に集まれる居場所として、続けてきました。11月29日には10周年の式典を行い、長年協力してきた方々へ感謝状や記念品をお贈りしました。コロナ禍で、サロンが思うように開催できない1年でしたが、これからも地域の居場所・つながりの場づくりとして、続けていきます。

鴨居チョイボラ 継続して活動中！

平成31年4月から、本格稼働した「鴨居チョイボラ」も4月の緊急事態宣言を受け5月まで、ボランティアの受付を中止していました。6月から、活動を再開し新型コロナウイルス感染の予防に気を付けながら、依頼を受けています。

令和2年度は合計29件（令和3年1月末時点）を受け、対応しました。これからも地域のつながりを大切にし、住みやすい鴨居にしていくため、取り組んでいきます。

ステイホーム鴨居福祉まつり

毎年11月に鴨居小学校で開催していた「鴨居福祉まつり」。今年度は三密を避けながら、それでも『つながり』を途切れさせないためと考え、参加団体に協力を依頼し、紙上まつりとして「ステイホーム鴨居福祉まつり2020」を発行しました。各団体からバラエティあふれる原稿が集まり、賑やかな鴨居福祉まつりを実現することができました。

お食事会から配食へ

鴨居会館食事会、鴨居ケアプラ食事会では、毎年、年6回、高齢の方を対象にしたお食事会を開催していましたが、新型コロナウイルスの影響で今までのような形での開催が難しくなりました。

しかし、「今、できることをやろう！」の掛け声で、みんなで相談し、「集まらないのなら、お食事を届けよう」と、配食へと活動の切り替えを行いました。密にならないように、必要最低人数のボランティアさんで食事を作り、ボランティアさんと民生委員さんとで、参加者のご自宅にお届けしました。



竹山地区

竹山地区別計画推進策定委員会

地域

竹山1～4丁目

緑区の南側に位置し、地区の南側は保土ヶ谷区に隣接しています。

昭和40年代に開発された竹山団地が中心にある丘陵地の住宅街です。この地区は、竹山中公園、竹山二丁目公園、竹山南公園等をはじめ、緑豊かな街並みが続きます。

緑区の中では最も高齢化が進んでおり、年少人口比率も最も低い地区となっています。

<主な関連施設>

最寄駅：鴨居駅（JR横浜線）

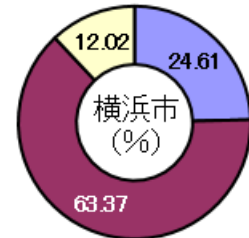
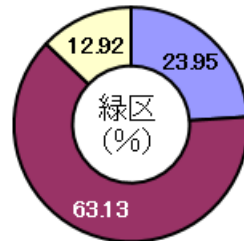
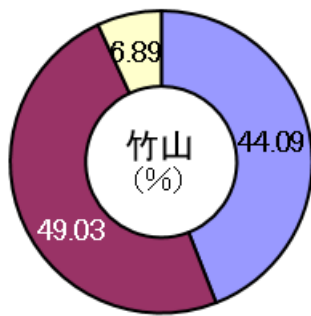
震災時避難場所（地域防災拠点）：竹山小学校

地域ケアプラザ等：横浜市鴨居地域ケアプラザ

<年齢区分別人口>

令和2年(2020年)9月末

人口比



75歳～	1,559人
65～74歳	1,386人
15～64歳	3,275人
6～14歳	315人
0～5歳	145人
合計	6,680人

75歳～	22,712人
65～74歳	20,888人
15～64歳	114,899人
6～14歳	14,744人
0～5歳	8,770人
合計	182,013人

75歳～	481,787人
65～74歳	443,753人
15～64歳	2,382,859人
6～14歳	282,869人
0～5歳	169,204人
合計	3,760,472人

竹山地区 地区別計画

- 目標1 ボランティアの取組を充実します
- 目標2 知りたい情報を分かりやすく伝えていきます
- 目標3 世代間・活動団体間の交流をすすめます

～令和2年度の取組～

○「竹山ボランティアセンター」の取り組みの周知強化へ

平成21年にオープンした「竹山ボランティアセンター」では年間約50件前後の依頼に対応しています。これからも、誰もが安心して暮らせる地域を目指して、ボランティアセンターを再度周知していきます。掲示板に掲載するチラシを新たに、作成しました。

○「竹山配食ボランティア」×「カプカプ竹山」

竹山配食ボランティアでは、令和2年4月より、カプカプ竹山さんにユーコープ竹山店からのお弁当の受け取りを依頼し、共同での活動を始めました。

コロナ禍で地域活動の再開が難しいなか、毎週火曜日の配食サービスは、見守りを兼ねた大事な活動となっています。

○ふれあいさろん竹多久の換気工事が終わりました！

竹山地区の皆さんの憩いの場であった、ふれあいさろん竹多久の換気工事が終了しました。換気扇を追加し非常扉も設置しました。三密対策をとりながら営業を再開しています。

また、ふれあいさろん竹多久で不定期に開催していた「カフェぶらり」ですが、横浜市 of 事業を活用し、タブレット4台を導入することができました。今後は「リモートカフェぶらり」も開催していきます。



白山地区

白山地区別計画推進策定委員会

地域 白山1～4丁目

緑区の東方に位置しており、地区の南側は旭区、北側は都筑区に隣接しています。北側には鶴見川が流れています。JR横浜線沿いの地区西側には白山ハイテクパーク（産業団地）、市営バス車庫、東側には大規模マンションが建っています。道路沿いに企業、商業施設等が並んでいます。

また、南側に向かって丘陵状になっており、計画的に整備された戸建中心の閑静な住宅地が広がっています。

<主な関連施設>

最寄駅：鴨居駅（JR横浜線）

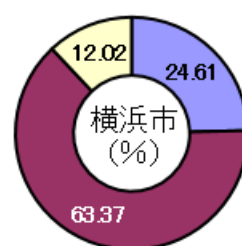
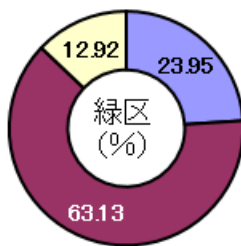
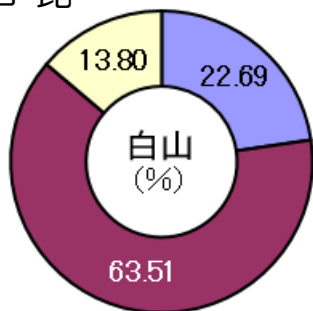
震災時避難場所（地域防災拠点）：鴨居中学校

地域ケアプラザ等：横浜市鴨居地域ケアプラザ

<年齢区分別人口>

令和2年(2020年)9月末

人口比



75歳～	1,219人
65～74歳	1,347人
15～64歳	7,183人
6～14歳	1,040人
0～5歳	521人
合計	11,310人

75歳～	22,712人
65～74歳	20,888人
15～64歳	114,899人
6～14歳	14,744人
0～5歳	8,770人
合計	182,013人

75歳～	481,787人
65～74歳	443,753人
15～64歳	2,382,859人
6～14歳	282,869人
0～5歳	169,204人
合計	3,760,472人

白山地区 地区別計画

みんなで進めよう！

自助・共助・近助による安全・安心なコミュニティづくり！！

- | | | |
|-----|----------|---------------------------|
| 目標1 | 防 犯 | 地域の防犯力を高めよう |
| 目標2 | 防 災 | 自助・共助・近助の力を育もう |
| 目標3 | 福 祉 | 孤立化を防ごう |
| 目標4 | 子どもの健全育成 | 子育てしやすい地域づくりをめざそう |
| 目標5 | 環 境 | ごみ・美化・地球温暖化などの課題に地域で取り組もう |

～令和2年度の取組～

～高齢者世帯を中心にマスクケースを配布しました！～

白山地区では、白山地区社会福祉協議会が中心となりマスクケースを作成し、自治会、民生委員児童委員の協力のもと、高齢者世帯にマスクケースを配布いたしました。

配布の際には、体調の確認やコロナウイルス感染防止の声掛けを行いました。



～「コガモひろば」 & 「はくさん HAPPY MAMA'S」～

コロナ禍で開催が難しい子育て支援ですが、「コガモひろば」も「はくさん HAPPY MAMA'S」も、スタッフが様々な工夫をして9月から活動を再開しました。三密を避けるため二部構成にしたり、定員を減らしたり、入替時の消毒の徹底を行っています。

～猫の手清掃活動実施中！～

感染対策をとりながら、草むしり、ゴミ拾い、落ち葉清掃を実施しました。

また個人依頼にも対応しています。



新治中部地区

新治中部地区別計画推進策定委員会

地域

台村町、森の台、寺山町、中山1~6丁目、上山1~3丁目

明治41年横浜線開通と同時に中山駅が開業し、駅周辺に市街地が形成されました。現在も中山駅を中心に緑区総合庁舎や警察署などの行政機関、福祉保健施設があり、駅前には商店街などの商業施設があります。また、横浜市営地下鉄グリーンラインが平成20年3月開通しました。

一方、南側には県立四季の森公園や長坂谷公園があり、緑豊かな環境となっています。

<主な関連施設>

最寄駅：中山駅（JR横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン）

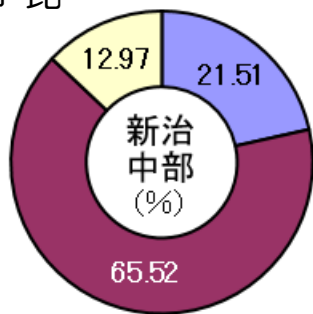
震災時避難場所（地域防災拠点）：上山小学校、中山小学校、中山中学校、森の台小学校

地域ケアプラザ等：横浜市中山地域ケアプラザ

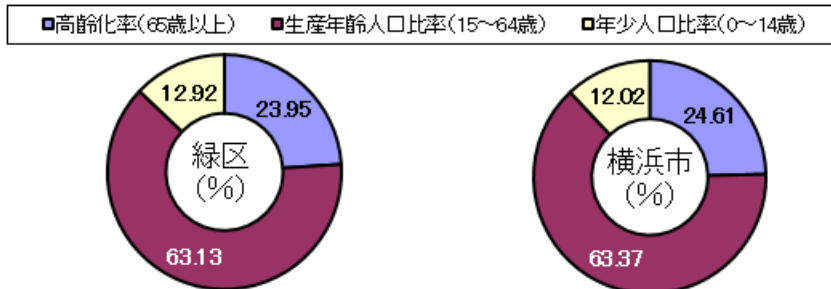
<年齢区分別人口>

令和2年(2020年)9月末

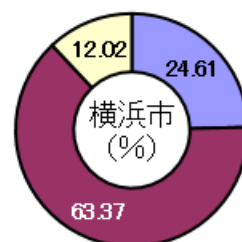
人口比



75歳~	3,607人
65~74歳	3,572人
15~64歳	21,870人
6~14歳	2,794人
0~5歳	1,536人
合計	33,379人



75歳~	22,712人
65~74歳	20,888人
15~64歳	114,899人
6~14歳	14,744人
0~5歳	8,770人
合計	182,013人



75歳~	481,787人
65~74歳	443,753人
15~64歳	2,382,859人
6~14歳	282,869人
0~5歳	169,204人
合計	3,760,472人

新治中部地区 地区別計画

目標1 防犯・防災に強い、安心できるまちにしたい

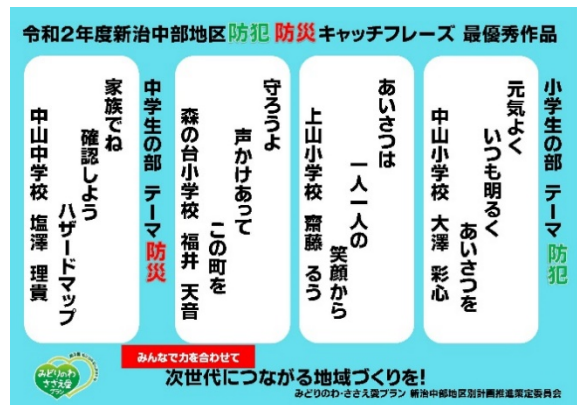
目標2 次世代につながるまちにしたい

～令和2年度の取組～

防犯、防災キャッチフレーズ

地域の防犯・防災意識を高めていく取組として、地域の小・中学生を対象として、小学生は防犯、中学生は防災についてのキャッチフレーズとなる標語を募集しました。

平成25年度から始まり8回目を迎えた今年度もコロナ禍の中、425件という多くの標語が集まり、最優秀4作品を含む35作品が入選作品として選出されました。入選作品の表彰式は例年「地域ふれあいフェスティバル」で行っていましたが、令和2年度は各学校に自治会役員が出向き、表彰を行いました。



アンケート部会の取組

「子どもたちに新治中部にもっと興味や愛着を持ってほしい。それが将来の新治中部の活力につながる」というテーマで専門部会を立ち上げました。当初は幅広くアンケート配布を検討していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、部会の活動も中断となりました。12月より部会を再開し、コロナ禍で安全に行うための調査方法について活発な意見交換をしています。部会メンバーは、新治中部の子どもたちのことをとても大切に考えており、調査結果を元に子どもたちに必要な取り組みの検討や、自治会のさらなる発展へ繋げようとしています。

三保地区

三保地区別計画推進策定委員会

地域 三保町

緑区の中央に位置し、地区の南側は旭区に隣接しています。北側約半分には、いくつかの集合住宅と既存の住宅など、住宅地が広がっています。南側には「三保市民の森」など広大な緑地が残されていますが、ここ数年間で開発が進み、住宅が増えています。

また、特別養護老人ホームなどの高齢者施設が多くあります。

<主な関連施設>

最寄駅：中山駅（JR横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン）

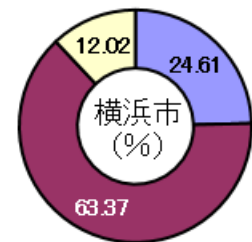
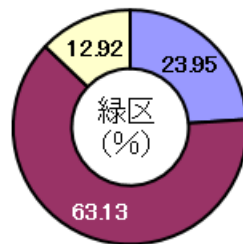
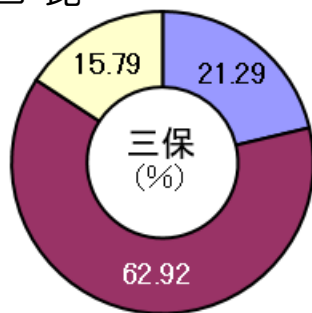
震災時避難場所（地域防災拠点）：三保小学校

地域ケアプラザ等：横浜市中山地域ケアプラザ

<年齢区分別人口>

令和2年(2020年)9月末

人口比



75歳～	1,546人
65～74歳	1,743人
15～64歳	9,718人
6～14歳	1,605人
0～5歳	833人
合計	15,445人

75歳～	22,712人
65～74歳	20,888人
15～64歳	114,899人
6～14歳	14,744人
0～5歳	8,770人
合計	182,013人

75歳～	481,787人
65～74歳	443,753人
15～64歳	2,382,859人
6～14歳	282,869人
0～5歳	169,204人
合計	3,760,472人

三保地区 地区別計画

- 目標1 地域でのつながりを大切にし、活動を活発にしたい
- 目標2 落ち着いて活動できる活動拠点を増やしたい
- 目標3 地域が団結して、防災力を高めたい

～令和2年度の取組～

目標1・目標2

三保地区では、新たにできた活動拠点『さんさんルーム2号館』での活動を増やしていくために、三保地区見守り・居場所づくり検討委員会、さんさんルーム2号館管理運営委員会を中心に検討・調整を行いました。そして令和2年2月・3月に【書道・写真・折り紙・ヨガ】の4つのサークル活動を立ち上げました。新型コロナウイルス感染症の影響で今年度の初めは中止しておりましたが、地域をつながりを無くさないためにも、感染対策をしながら9月以降サークル活動を再開しました。また、新たなメンバーを募集する為、各サークル活動の情報をまとめたチラシを作成し各自治会で回覧や掲示するなど、活動をより活発に、そして地域をつながりを大切にしていけるよう取り組んでいます。



目標3

コロナ禍でこれまでのように全員が集まって防災訓練を実施する事ができませんでした。そこで、【三保町 避難行動（安全確保）マニュアル】を作成し、住民に配布して方法を変えて防災訓練に取り組みました。

マニュアルは、「在宅避難」などの避難方法や他の災害時に役立つ備品の一覧など、自宅にいても各自が防災意識を高めることができるように工夫しています。



山下地区

山下地区別計画推進策定委員会

地域

西八朔町、北八朔町、小山町、青砥町

緑区の北側に、恩田川と鶴見川に挟まれた形で東西に長く位置し、地区の北西側は青葉区、北側は都筑区に隣接しています。市街化調整区域が多い田園地帯で、丘陵地に市営住宅や戸建の住宅が並んでいます。

山下地域交流センターや山下みどり台小学校コミュニティハウスが活動の拠点となっています。また、特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの福祉施設が多くあります。

<主な関連施設>

最寄駅：中山駅（JR横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン）、青葉台駅、藤が丘駅（東急田園都市線）

震災時避難場所（地域防災拠点）：山下小学校、山下みどり台小学校

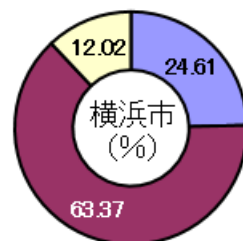
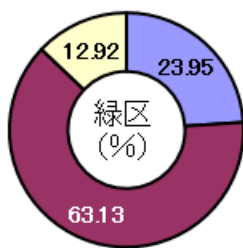
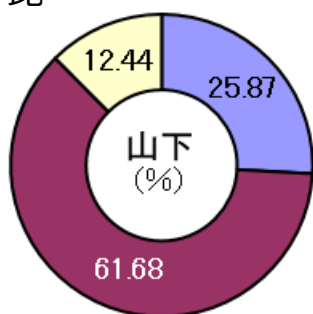
地域ケアプラザ等：横浜市中山地域ケアプラザ、地域包括支援センターふじ寿か園

※令和3年4月1日から、地域包括支援センターふじ寿か園は横浜市山下地域ケアプラザに変更

<年齢区分別人口>

令和2年(2020年)9月末

人口比



75歳～	2,529人
65～74歳	1,779人
15～64歳	10,270人
6～14歳	1,267人
0～5歳	805人
合計	16,650人

75歳～	22,712人
65～74歳	20,888人
15～64歳	114,899人
6～14歳	14,744人
0～5歳	8,770人
合計	182,013人

75歳～	481,787人
65～74歳	443,753人
15～64歳	2,382,859人
6～14歳	282,869人
0～5歳	169,204人
合計	3,760,472人

山下地区 地区別計画

- 目標1 地域での「つながり」を大切に、健康で元気に暮らし続けられるまちづくり
 目標2 必要な「情報」が入手しやすいまちづくり
 目標3 「防災・防犯」で安心・安全なまちづくり

～令和2年度の取組～

○ 生活支援ボランティア活動を継続中！

令和2年1月から本格稼働した生活支援ボランティアは、コロナ禍の中で感染防止対策を講じた上で継続して行っています。緊急事態宣言中は中止しましたが、夏の訪れとともに、枝切りや草むしり等多くの依頼があり、右の表に示したような作業を実施しました。令和2年4月～12月まで50件対応し、前年度の試行期間と同程度の依頼があり、地域の中の「チョットした困りごと」を支える取組を続けています。

依頼内容	実績
草取り	32件
枝切り	11件
電球交換	1件
部屋の清掃・片付け	2件
その他(雨樋掃除他)	4件
合計	50件

令和2年4月～12月の実績

○ 「山下地区安全・安心まちづくりプラン」を改定し、令和3年度からスタートします！

これまでの「まちづくりプラン」と「地域福祉保健計画」は個別の取組で進めてきましたが、まちづくりプランの改定に当たって両者を融合、抱える課題のうちハード面からの取組みを「まちづくりプラン」で、ソフト面からの取組みを「地域福祉保健計画」で取り上げることにしました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、思うように地域活動や行事を行うことができていませんが、「誰もが安全・安心を実感できる緑豊かなまちづくり」を目指して、出来ることから工夫しながら取組んでいます。



○ 山下連合だよりを3回発行、情報発信を進めています！

新型コロナウイルス感染防止のため行事や懇親会等が中止され話題に欠ける中、春、夏、新年の3回山下連合だよりを発行し、「新型コロナウイルス感染防止策」「山下地域ケアプラザ進捗状況」「まちづくりプラン改定」「ささえあいバス自主運行状況」「生活支援活動推進状況」などの情報や活動内容を会員に届けました。

○ 青パトによる防犯パトロール活動による「安全で安心なまちづくり」に注力！

防犯連絡員や女性防犯員の協力を得て、月5回青パトで防犯パトロールを実施。振り込み詐欺への注意喚起、児童の下校時の見守りなど、住民の皆さんに安全と安心を届ける活動をしています。また、山下防犯協会の指導の下、防犯カメラの設置も今年度は新たに二自治会で進みました。

新治西部地区

新治西部地区別計画推進策定委員会

地域

新治町、十日市場町、長津田みなみ台6・7丁目の一部

緑区の西北に位置し、地区の北側は恩田川を境に青葉区に隣接しており、新治町、十日市場町（十日市場団地地区を除く）、長津田みなみ台6丁目の一部（十日市場町自治会）、長津田みなみ台7丁目の一部（後谷地区）で連合自治会を形成しています。

十日市場駅南側を中心に、公共施設、商業施設、医療機関やマンションなどの集合住宅を中心とした住宅が密集している一方、横浜線北側や新治町には農地や新治市民の森などの緑地も多く残されています。

<主な関連施設>

最寄駅：十日市場駅（JR横浜線）

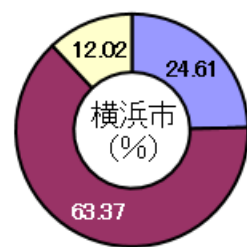
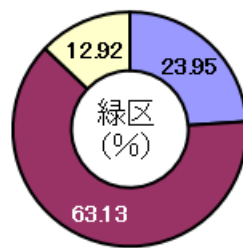
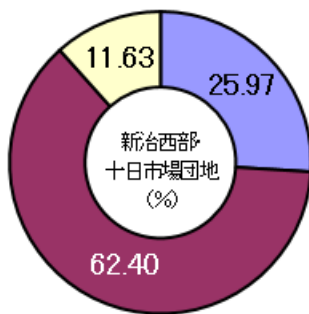
震災時避難場所（地域防災拠点）：新治小学校、十日市場小学校

地域ケアプラザ等：横浜市十日市場地域ケアプラザ

<年齢区分別人口>

令和2年(2020年)9月末

人口比



75歳～	3,005人
65～74歳	2,184人
15～64歳	12,467人
6～14歳	1,419人
0～5歳	905人
合計	19,980人

75歳～	22,712人
65～74歳	20,888人
15～64歳	114,899人
6～14歳	14,744人
0～5歳	8,770人
合計	182,013人

75歳～	481,787人
65～74歳	443,753人
15～64歳	2,382,859人
6～14歳	282,869人
0～5歳	169,204人
合計	3,760,472人

注) 上記の人口データには、新治町、十日市場町及び長津田みなみ台7丁目のデータを集計しています。

新治西部地区 地区別計画

目標1 地域の中での孤立化をなくし みんなの顔が見える環境を目指します

目標2 自治会加入を促進し、地域情報をより多くの人に届けます

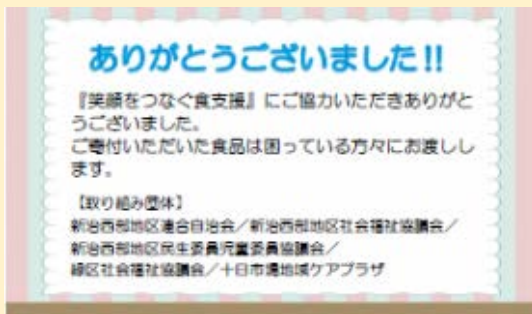
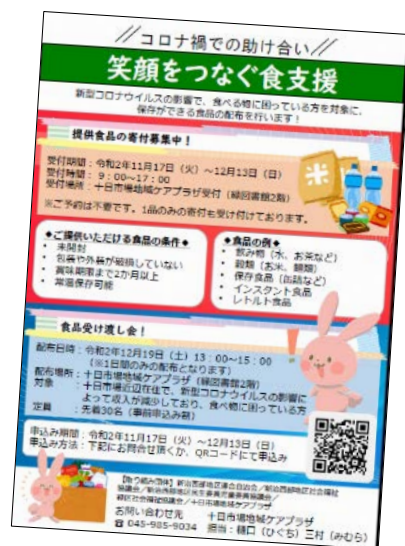
～令和2年度の取組～

コロナ禍において、地域活動はほとんど中止となりました。この状況下で、地域での孤立化、支えあい、つながりを絶やさないためになにかできることがないかを検討し、食支援を行うことにしました。

地域の多くの方々に食品寄付のご協力をいただき、集まった食品を困っている方へお渡し致しました。

また、十日市場自治会では区社会福祉協議会が行っている食支援に役立てるため、防災の備蓄米を寄付しました。

～笑顔をつなぐ食支援～



こども村



こども村も感染予防対策を図りながら、こども達の地域の居場所として活動を継続しています。

これからも地域で支えあい、みんなの顔が見える活動、元気な街になるように取り組みを進めていきます。

十日市場団地地区

十日市場団地地区別計画推進策定委員会

地域

十日市場町（十日市場団地地区）

昭和34年から39年にかけて建てられた市営十日市場住宅を中心とした地区です。建物の老朽化に伴い、十日市場ヒルタウンとして平成3年から全面的な建替えを実施し、高層化により人口も増加しました。ヒルタウンの名称のとおり、丘陵状の地形に計画的に整備されています。

また、「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」の取組の一つとして、民間活力の導入や市有地の有効活用等について検討されています。

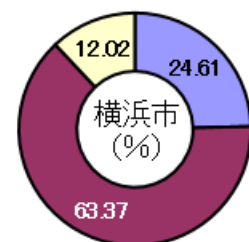
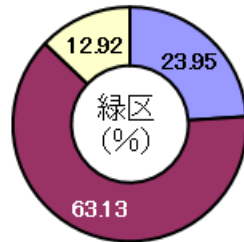
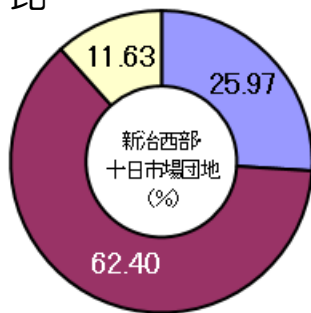
<主な関連施設>

- 最寄駅：十日市場駅（JR横浜線）
- 震災時避難場所（地域防災拠点）：十日市場中学校
- 地域ケアプラザ等：横浜市十日市場地域ケアプラザ

<年齢区分別人口>

令和2年(2020年)9月末

人口比



75歳～	3,005人
65～74歳	2,184人
15～64歳	12,467人
6～14歳	1,419人
0～5歳	905人
合計	19,980人

75歳～	22,712人
65～74歳	20,888人
15～64歳	114,899人
6～14歳	14,744人
0～5歳	8,770人
合計	182,013人

75歳～	481,787人
65～74歳	443,753人
15～64歳	2,382,859人
6～14歳	282,869人
0～5歳	169,204人
合計	3,760,472人

注) 上記の人口データには、新治町、十日市場町及び長津田みなみ台7丁目のデータを集計しています。

十日市場団地地区 地区別計画

- 目標1 地域が団結して、「つながり」を作りあらゆる世代の交流を広げよう
- 目標2 連携して、「見守り」を進め いつまでも支えあえる地域を目指そう
- 目標3 健康や交流を意識した取組を進め 地域をもっと元気にしよう

～令和2年度の取組～

コロナ禍において、感染予防対策を図りながら、地域でつながれる場所として「お茶飲み会」、「おたのしみ昼食会」、「こども村」などを開催しました。

～お茶飲み会～

お茶飲み会は、お茶菓子を食しながらお話をするのではなく、マスクをしながら、少しの時間でもお話をする活動に切り替え開催しました。



十日市場団地 参加費無料
お茶飲み会

新型コロナウイルスの感染予防を行いながらクリスマス会をします。人と人との距離を保ち、短い時間ですがお話が出来たら良いです

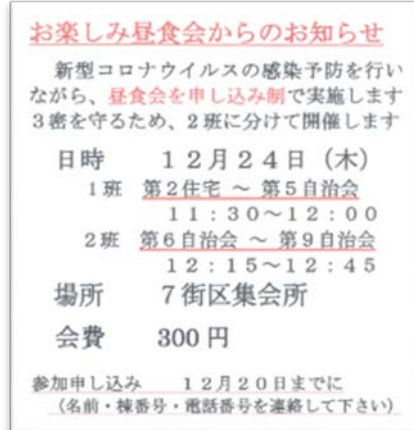
日にち 12月19日(土曜日)
13:00～14:30
会場 十日市場団地第2街区集会所

日にち 12月25日(金曜日)
13:00～14:30
会場 十日市場団地第14街区集会所

どちらか一方の会費での参加をお願いします
「マスク」の着用をお願いします

～お楽しみ昼食会～

昼食会も事前予約を取り、換気を図りながら1方向を向きながらの開催を行いました。



お楽しみ昼食会からのお知らせ

新型コロナウイルスの感染予防を行いながら、昼食会を申し込み制で実施します
3密を守るため、2班に分けて開催します

日時 12月24日(木)

1班 第2住宅～第5自治会
11:30～12:00

2班 第6自治会～第9自治会
12:15～12:45

場所 7街区集会所

会費 300円

参加申し込み 12月20日までに
(名前・棟番号・電話番号を連絡して下さい)

～こども村～

こども村も同様に感染予防対策を図りながら、こどもたちの地域の居場所として活動を継続しています。



こども村

新型コロナウイルスの感染予防を行いながら、こどもたちの地域の居場所として活動を継続しています。

開催日(時間) 15:00～16:45

11月 12月 1月 2月 3月
25日(月) 23日(水) 27日(土) 24日(水) 24日(水)

※新型コロナウイルスの感染予防のため、お申し込み制で実施します。
また、換気を行うため、お申し込み制で実施します。お申し込み制で実施します。
お申し込み制で実施します。

お問い合わせ先
十日市場団地地区ボランティアセンター
TEL: 045-885-8321

その他にも地区ボランティアセンターの活動や配食サービスを実施しました。

これからも『いつまでも支えあえる十日市場団地』を目指し、地域で団結して「つながり」を作っていきます。

霧が丘地区

霧が丘地区別計画推進策定委員会

地域 霧が丘1～6丁目

緑区の西方に位置し、地区の南側は旭区に隣接しています。昭和54年から日本住宅公団（現在の霧が丘グリーンタウン）の入居が始まり、昭和56年に十日市場町から区域変更された比較的新しい街です。

街路樹、歩行者専用道路など（通称「赤道」）、計画的に整備されていることが特徴的で、緑豊かな公園が点在し、恵まれた自然環境は南側に隣接する新治市民の森に続いています。

平成20年に横浜市初の小学校跡の建物を活用した複合施設「霧の里」が開所し、住民の活動の場として定着してきています。

<主な関連施設>

最寄駅：十日市場駅（JR横浜線）

震災時避難場所（地域防災拠点）：霧が丘小学校（旧霧が丘第二小学校）、霧の里（旧霧が丘第三小学校）

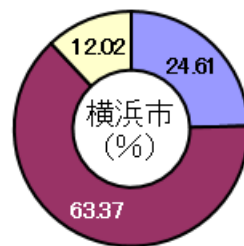
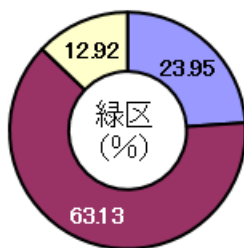
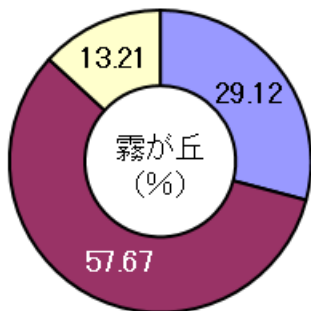
地域ケアプラザ等：横浜市霧が丘地域ケアプラザ

<年齢区分別人口>

令和2年(2020年)9月末

人口比

■高齢化率(65歳以上) ■生産年齢人口比率(15～64歳) ■年少人口比率(0～14歳)



75歳～	1,501人
65～74歳	1,876人
15～64歳	6,689人
6～14歳	995人
0～5歳	537人
合計	11,598人

75歳～	22,712人
65～74歳	20,888人
15～64歳	114,899人
6～14歳	14,744人
0～5歳	8,770人
合計	182,013人

75歳～	481,787人
65～74歳	443,753人
15～64歳	2,382,859人
6～14歳	282,869人
0～5歳	169,204人
合計	3,760,472人

霧が丘地区 地区別計画

- 目標1 「地域でのつながり」を大切にするまちづくり
- 目標2 みんなが活動できる「機会・場」のあるまちづくり
- 目標3 「安心・安全・健康」のまちづくり

～令和2年度の取組～

霧が丘学園校区 学校家庭地域連携事業講演会

学校家庭地域連携事業では専門家の先生をお招きし、タイムリ
ーな話題の講演会を毎年開催しています。

今年度は聖マリアンナ医科大学感染症講座教授の國島広之氏を
お招きして『新型コロナウイルス感染症』～現状と今後の対応～
と題して行われました。専門的な内容もありましたが、先生の軽
妙な語り口もあり非常にわかりやすく、100名以上集まった聴
講者もメモを取りながら熱心に聞き入っていました。



防犯パトロール



ゴミを拾うことで街をきれいにする美化活動、こどもたちや依
頼された方の見守り活動も兼ねて連合及び各自治会で行っていま
す。空き巣などの被害予防にもなっています。

防犯パトロールに参加する事で、顔見知りが増え交流も広がっ
ています。



防災訓練

いつ起きてもおかしくない地震。いざ、地震が起きた時に地域の
方で助け合えるように様々な訓練を行っています。今年度ははまっ
こトイレ設置訓練や火災が起きた時に地域住民でも消火できるよう
に放水訓練、さらにコロナ禍における受付訓練を中心に行いました。



長津田地区

長津田地区別計画推進策定委員会

地域

長津田1～7丁目、長津田町、いぶき野、
長津田みなみ台1～5丁目、6・7丁目の一部

緑区の最西端・最北端に位置し、南北に広い地区です。西は東京都町田市、北は青葉区、南は瀬谷区、南東は旭区に隣接しています。区内で最も広く、人口、世帯数ともに最大となっています。

近年、地区の東西を貫いている国道246号線東側、長津田みなみ台の大規模開発に伴い、大型商業施設、大規模マンション等が増加し、転入者が増加しています。また、駅北口地区市街地再開発により、都市型住宅等の整備も進められており、駅周辺に保育施設が多くあります。

<主な関連施設>

最寄駅：長津田駅（JR横浜線・東急田園都市線・こどもの国線）

震災時避難場所（地域防災拠点）：いぶき野小学校、長津田小学校、長津田第二小学校、田奈中学校

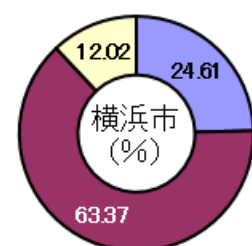
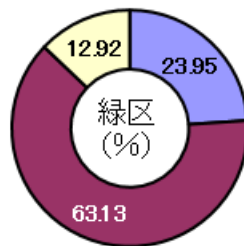
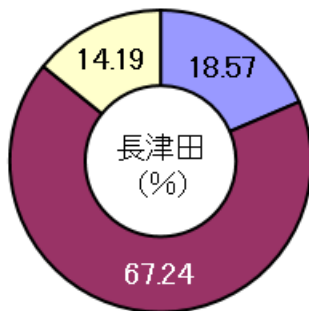
地域ケアプラザ等：横浜市長津田地域ケアプラザ

<年齢区分別人口>

令和2年(2020年)9月末

人口比

■高齢化率(65歳以上) ■生産年齢人口比率(15～64歳) ■年少人口比率(0～14歳)



75歳～	3,672人
65～74歳	3,506人
15～64歳	25,990人
6～14歳	3,263人
0～5歳	2,224人
合計	38,655人

75歳～	22,712人
65～74歳	20,888人
15～64歳	114,899人
6～14歳	14,744人
0～5歳	8,770人
合計	182,013人

75歳～	481,787人
65～74歳	443,753人
15～64歳	2,382,859人
6～14歳	282,869人
0～5歳	169,204人
合計	3,760,472人

注) 長津田みなみ台7丁目のデータは、新治西部地区・十日市場団地地区に集計しています。

長津田地区 地区別計画

- 目標1 地域情報の発信と共有をすすめます
- 目標2 若い人も高齢者も活躍できる地域づくりをすすめます
- 目標3 日頃の見守りから「いざ」という時の支えあいにつなげます
- 目標4 認知症の人も障がいのある人も、
その家族も暮らしやすい地域づくりをすすめます

～令和2年度の取組～

地区別計画を具体的に進める「向こう三軒両隣ともに支え合うまちづくり運営委員会」の3つの部会（高齢者福祉部会、こども・子育て部会、ささえあいネット部会）をコロナ禍の状況を踏まえた上で開催しました。各部会での取組みを進めた他、「長津田地区食支援」を通じた地域づくりにも取り組みました。

【高齢者福祉部会】

買い物に行くことが困難な方に向けて、宅配や出張販売等の買い物マップを作成しました。



【こども・子育て部会】

コロナ禍で子育ての情報得る機会が少なくなったため、子育て情報が必要な方に情報を届けられるよう「長津田地区 子育て情報紙」を作成しました。



【ささえあいネット部会】

地域のささえあいの意義を周知するため、「ささえあいネット通信」を作成しました。



【長津田地区食支援】

コロナ禍で食の確保が困難になった方に向けて、長津田地区内で食材の寄付を募り、必要な方に配分しました。計3回実施し、1回あたり約30名に配分しました。



第3章 区域計画

●「区域計画」の推進について

(1)「区域計画」の構成と取組主体

区域計画は、「地区別計画」の取組支援と他地区に取組を広げるきっかけづくり等を推進する「地区支援目標」と、重点的なテーマに沿った事業ベースの具体的な取組をまとめた「重点テーマと目標」の2つで構成されています。

この「地区支援目標」と「重点テーマと目標」の実現に向け、区役所、区社会福祉協議会及び地域ケアプラザが、地域や関係団体・事業者などと協働で取り組んでいきます。

(2) 地区支援目標

「地区支援目標」は、各地区で展開されている「地区別計画」を中心とした取組について、その充実や実現に向けて、助言等を行うとともに各種助成制度などの活用により、支援を行います。

また、「地区別計画推進策定委員会」や「地区支援チーム」における活動を通じて、各地区の取組を把握し、その手法やノウハウを蓄積して効果的に地域に情報提供することで、他地区にその取組を広げるとともに、取組の支援を行ないます。

目標1	地域での「つながり」づくりの取組を支援し、ともに推進しながら、他の地域へも取組を広げていきます！<つながり>
目標2	多くの人が地域で活躍でき、地域活動が広がっていくことを目指し、地区の支援やコーディネートを行います！<人材・担い手>
目標3	より身近な地域で活動できるよう、地域活動における「機会」「場」に関するノウハウを共有し、活用します！<機会・場>
目標4	地域情報を共有・活用できる体制づくりをすすめます！<情報>
目標5	地域の取組を共有するとともに、活動の広がりを意識しながら継続して取り組めるよう、支援を行います！<安全・安心・健康>

(3) 区域計画の重点テーマと目標

「重点テーマと目標」は、「区民アンケート」、「分野別・団体別グループインタビュー」や、各地区の「地区別計画推進策定委員会」などでの意見を参考に、「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」の提言に基づき、区域での取組が必要と考えられる6テーマを選定しました。

また、「目標」や「主な取組」に関しては、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザを中心に検討を進め、それぞれのテーマの必要性に関して、「背景と取組の方向性」「これまでの取組」「期待されること・求められていること」などを経て、項目を選定しました。

テーマ1	日常的な見守り体制づくりに関する取組	テーマ4	子ども・子育てに関する取組
テーマ2	認知症に関する取組	テーマ5	災害時に支援が必要な方への取組
テーマ3	障害児・障害者に関する取組	テーマ6	健康づくりに関する取組

(4)「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」について

第1期、第2期計画に引き続き、「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」が、地区別計画を含めた第3期計画での取組状況の把握や振り返りを行っています。

委員は、学識経験者、福祉保健活動団体等の代表などで構成しています。

<令和2年度の開催状況>

第1回を令和3年3月下旬に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、書面開催としました。

● 6つの重点テーマの推進状況

(1) 日常的な見守り体制づくりに関する取組

■ひとり暮らし高齢者等地域で見守り推進事業

行政が保有する75歳以上のひとり暮らし高齢者及び75歳以上の高齢者のみで構成される世帯（以下、「ひとり暮らし高齢者等」）の情報を活用し、支援や見守り等を望んでいる方を把握するとともに、必要な支援の実施や地域での顔の見える関係づくりを目的としている事業です。

民生委員・児童委員、地域包括支援センター、区役所の三者が連携し、ひとり暮らし高齢者等の名簿をもとに、対象者宅へ訪問等を行い状況の把握を行っています。訪問の結果は三者で共有し、必要に応じてサービスの情報提供や継続した見守りを行うことで、高齢者の方が地域で孤立することなく安心して生活できる地域づくりを行っています。

令和元年度には、75歳以上の高齢者のみで構成される世帯にも対象を広げました。令和2年度は、名簿に掲載されている方のうち、新たに75歳になられた方や緑区に転入されてきた方（約1,800人）を中心に状況の把握を行いました。

新型コロナウイルス感染症が拡大している中でも、感染対策を徹底し訪問方法を工夫しながら、高齢者の見守りを行っています。

■成年後見サポートネット

令和2年度より、これまでの成年後見サポートネットの機能を拡充し、新たに区域の権利擁護の相談分析や課題検討等を行う「専門職会議」とこれまでの「全体会」の2部制を「区協議会」として位置づけ、10月に第1回目を開催しました。また、市民後見人の育成支援を目的とするため、「市民後見サポートネット」を別途位置づけ、12月に第1回目を開催しました。

専門職会議では、成年後見等の専門職団体でもある弁護士・司法書士・行政書士・社会福祉士の方々と共に各相談機関が受けている相談を分析し、課題整理や今後の方向性等の話し合いを進めています。今年度の全体会では、専門職会議でも参加している弁護士より、補助・補佐についての基本的な理解と支援に生かすポイント等の講義を行いました。また、市民後見サポートネットでは、コロナ禍で困ったこと、工夫したことについて、市民後見人を含む関係機関と一緒に話し合いを行いました。



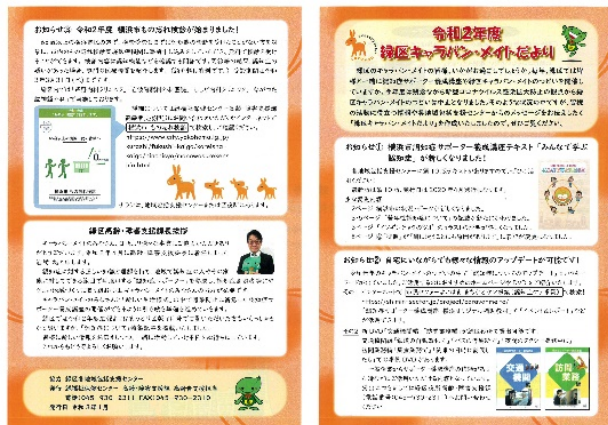
第3章 区域計画

(2) 認知症に関する取組

■認知症キャラバンメイト通信の発行

認知症サポーター養成講座を行うキャラバン・メイトのみなさまへの支援として、毎年、認知症キャラバン・メイトのつどいを開催していますが、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となりました。

代替として、キャラバン・メイトのみなさま向けに、活動に役立つ情報や各地域包括支援センターからのメッセージを伝えるための「緑区キャラバン・メイトだより」を発行しました。引き続き、コロナ禍でも工夫を凝らして認知症の普及啓発の取組を進めていきます。



(3) 障害児・障害者に関する取組

■ライフデザイン講座の開催

緑区では、障害のある方とその家族が将来について考える機会として連続講座を開催しています。「親亡き後の障がい者の生活を親あるうちに準備するライフデザイン講座」で、住まいやお金のこと、成年後見制度のことなど様々なテーマで緑区基幹相談支援センターあおぞら、緑区障がい者後見的支援室みどりのこかげが企画し、緑区高齢・障害支援課及び区内の地域ケアプラザが協力して実施しています。

令和2年度第2回講座「障害福祉サービスとライフデザインについて」では緑区高齢・障害支援課ソーシャルワーカーが講師を務め約40名が参加しました。皆さん熱心に聴講されて、「サービスについて知ることができて良かった」といった感想も聞かれ好評でした。



■障害者週間イベントとみどりハートフルマーケット

令和2年12月2日から4日まで緑区役所で「緑区障害者週間イベント2020～みんな もっと いっしょに たのしもう み・ど・り!～」を開催しました。イベントは国の定める障害者週間（12月3日から9日まで）に合わせて障害福祉への理解を深めるために、区内障害福祉サービス事業所や特別支援学校など障害福祉に関わる42機関と区役所が一緒になって企画したものです。今回はコロナ禍の中でも楽しんでもらえるように、ハンドベルの演奏や人形劇を映像で上映したり、事業所紹介に映像を活用しました。障害者によるアート作品の展示、障害者事業所の自主製品の販売がにぎやかに催され、連日多くのお客様が買物を楽しんでいらっしゃいました。

また、緑区役所ではこうした障害のある方の活躍の場づくりとして、自主製品の区役所販売「みどりハートフルマーケット」を定期的で開催しています。障害のある方が元気な声で呼び込みをしながらお弁当、パン、ビーズアクセサリーなどの雑貨を日替わりで販売し、区役所に訪れた方が立ち寄っています。



(4) 子ども・子育てに関する取組

■緑区寄り添い型生活支援事業 ～ミドリクラブ～

令和3年2月に「緑区寄り添い型生活支援事業～ミドリクラブ～」が始まりました。

放課後の時間に、簡単な家事や学校の宿題等に取り組むことで、生活習慣や学習習慣を整えることが目的です。ほかの子どもたちやスタッフと一緒に、いろいろな体験を通じて、自分の得意なことに気づいたり、興味のあることを見つけたり、将来の目標や夢を持つきっかけを作ります。家庭環境に左右されることなく、一人ひとりが自立した社会生活を送れるように支援していきます。

(5) 災害時に支援が必要な方への取組

■災害時要援護者支援事業の啓発

災害時に避難行動の支援等の配慮が必要な方（高齢者や障害者、乳幼児、傷病者、外国人など）を支援するために、日頃から地域で顔の見える関係づくりのための取組を進めることが大切です。今年度は各地区での取組状況について確認し、区内の2地区で取組の啓発を実施しました。

これまで緑区では、ささえあいカードを活用した「手上げ方式」の取組が多く行われていますが、収集した個人情報への更新の手間が課題として挙げられています。引き続き、その他の取組手法についても紹介し、地域で支援の取組が広がっていくことを目指します。

(6) 健康づくりに関する取組

■感染症予防対策研修

新型コロナウイルス感染症拡大予防の取組の一環として、区内の高齢者施設及び障害者施設を対象とした研修を開催しました（6月、11月に計5回）。研修では、当該感染症の基礎知識や感染防護策、施設職員として必要な手袋着脱の実演レクチャーなどを実施しました。参加者からは、「基礎知識を再確認することができてありがたかった」「集団感染につながった事例共有は有意義だった」「ヒヤリハットを自分事として他職員と共有したい」等のご意見をいただきました。

■コロナ禍での元気づくりステーションの取組

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、元気づくりステーションの活動も一時中止となりました。5月に緊急事態宣言が解除された後、区高齢者支援担当、地域包括支援センターと元気づくりステーションの担い手の方を中心に感染防止対策を行ったうえでの活動の形を話し合いました。その後、活動場所、活動内容などを見直し、多くのグループが活動を再開しました。

思うように活動ができない一年でしたが、これまでの活動を通して築いてきた参加者同士のつながりの大切さを改めて実感することができました。



●第39回 緑区社会福祉大会について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、第39回緑区社会福祉大会は令和3年3月22日に緑区役所にて、授賞式のみ行いました。感染予防対策を取りながら、緑区において永年にわたり、社会福祉活動に携わってこられた多くの団体や個人の方31名の功績に感謝し、地域福祉の一層の充実を図ることを目的に表彰が行われました。

一方、令和元年度、令和2年度と新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、例年大会の第二部として行っていたシンポジウムの実施ができませんでした。

次のスライドは、本来予定していた「子ども・子育てに関する取組」についての内容となっています。地域で行われている、子ども・子育て世帯向けの取組を紹介します。

ぜひ、ご覧ください！



※この内容は、令和2年2月28日 第38回緑区社会福祉大会 第2部のシンポジウムで行う予定であった資料を更新したものです。地域でできる子ども・子育て支援について考えていただくきっかけになればと考えています。

高めよう！地域の子育て力 ～わたしたちのまちで、子どもたちを～

第3期緑区地域福祉保健計画 みどりのわ・ささえ愛プラン
重点テーマ④「子ども・子育てに関する取組」の地域活動紹介



1

第3期プランの特長

「区域計画」6つの重点テーマと目標を設定

- ① 日常的な見守り体制づくりに関する取組
- ② 認知症に関する取組
- ③ 障害児・者に関する取組
- ④ 子ども・子育てに関する取組
- ⑤ 災害時に支援が必要な方への取組
- ⑥ 健康づくりに関する取組



★いずれも区全域に共通する昨今の大きな社会的課題です

2

区域計画 重点テーマ4 「子ども・子育てに関する取組」

- ① 子ども・子育て世帯を取り巻く状況
- ② 緑区内の子ども・子育ての取組

についてお伝えします！



3

区域計画 重点テーマ4 「子ども・子育てに関する取組」

【取組と方向性】

子育て世代を取り巻く環境として、少子高齢化や核家族化、共働き世帯の増加、情報化社会の進展によるコミュニケーション方法の多様化などにより、ライフスタイルが変化してきています。

こうした中で、

地域でのつながりの希薄化による子育て世代の孤立化が問題となっており、子育て力の向上と地域の子育てを支える力が必要とされています。

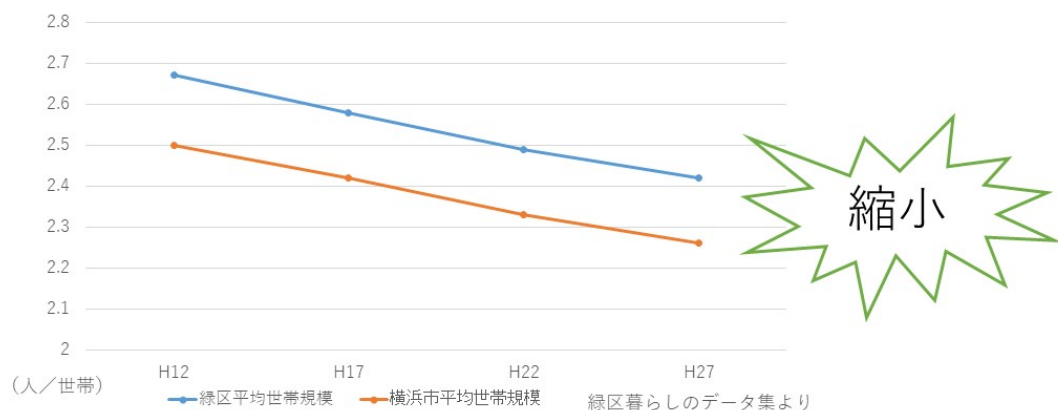
4

子どもを取り巻く状況①

世帯規模の縮小

⇒ 少子高齢化に加え、協力を得られる家族が少なくなっている。

緑区平均世帯規模の動向



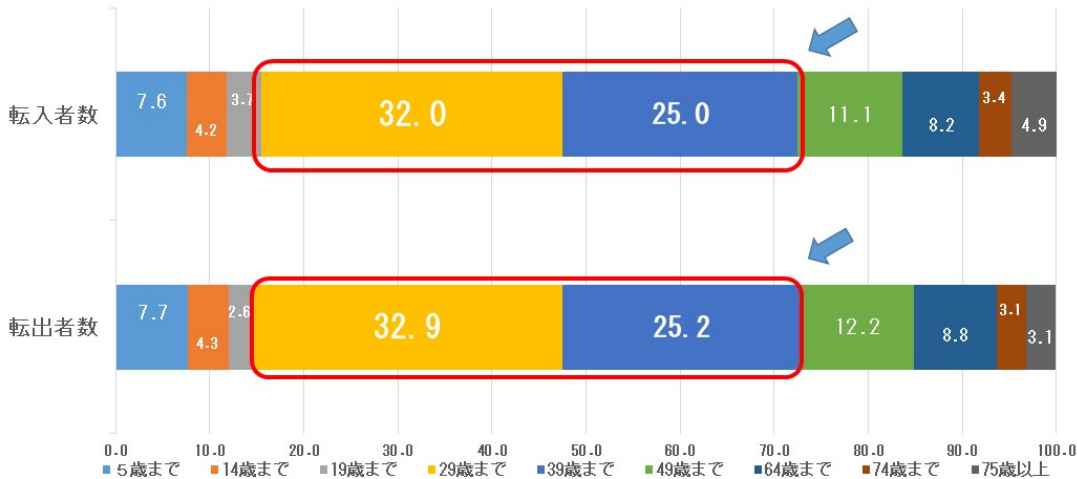
5

子どもを取り巻く状況②

地縁のない子育て世帯が多い

⇒ 隣近所を気軽に頼ることができない。

転出入とも、20～30代が全体の6割を占める



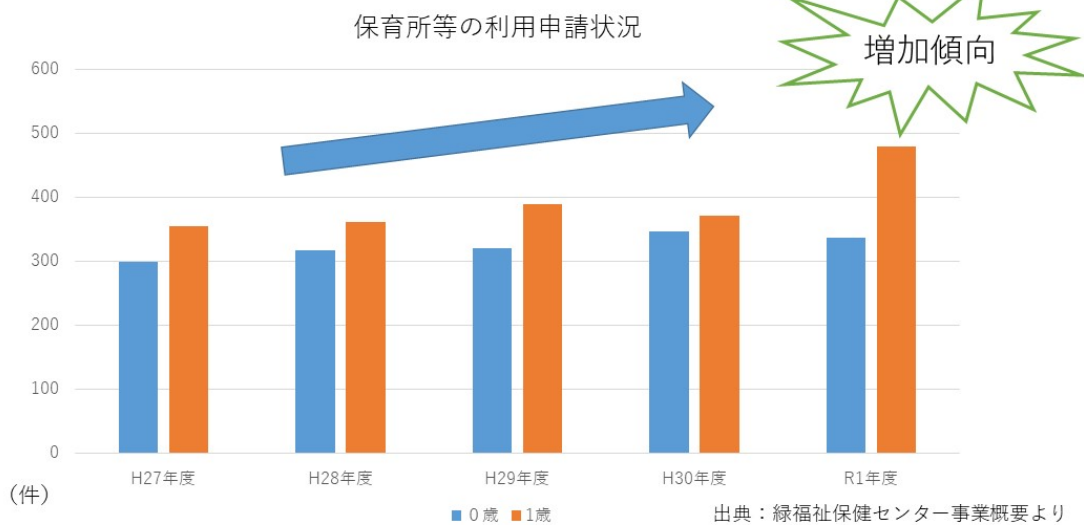
出典：横浜市の人口～令和元年度中の人口動態と令和2年1月1日現在 「第7表男女、行政区、年齢区分別転出者数及び割合（令和元年中）」

6

子どもを取り巻く状況③

共働き世帯の増加

⇒ 家庭での子育て力に限りがある。

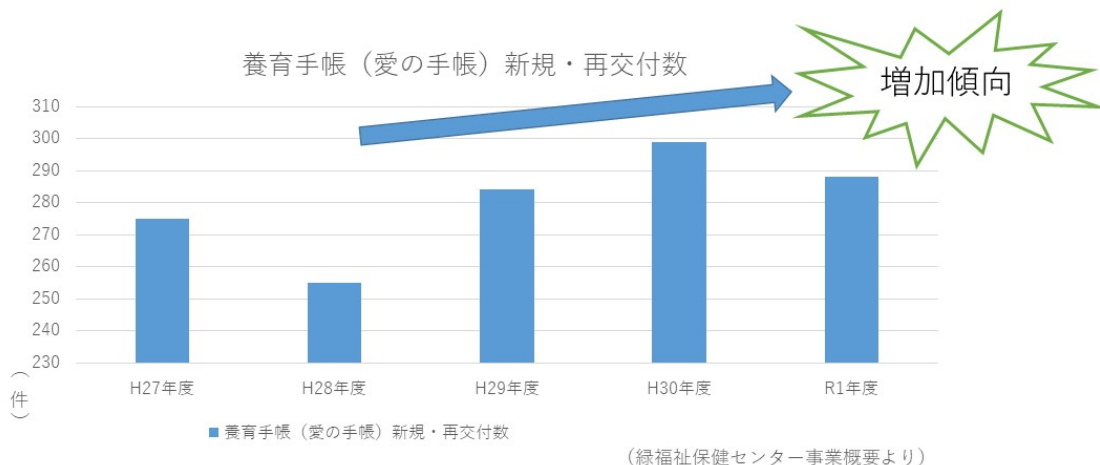


7

子どもを取り巻く状況④

療育手帳（愛の手帳）の交付数の増加
⇒支援を要する子どもが増加傾向にある。

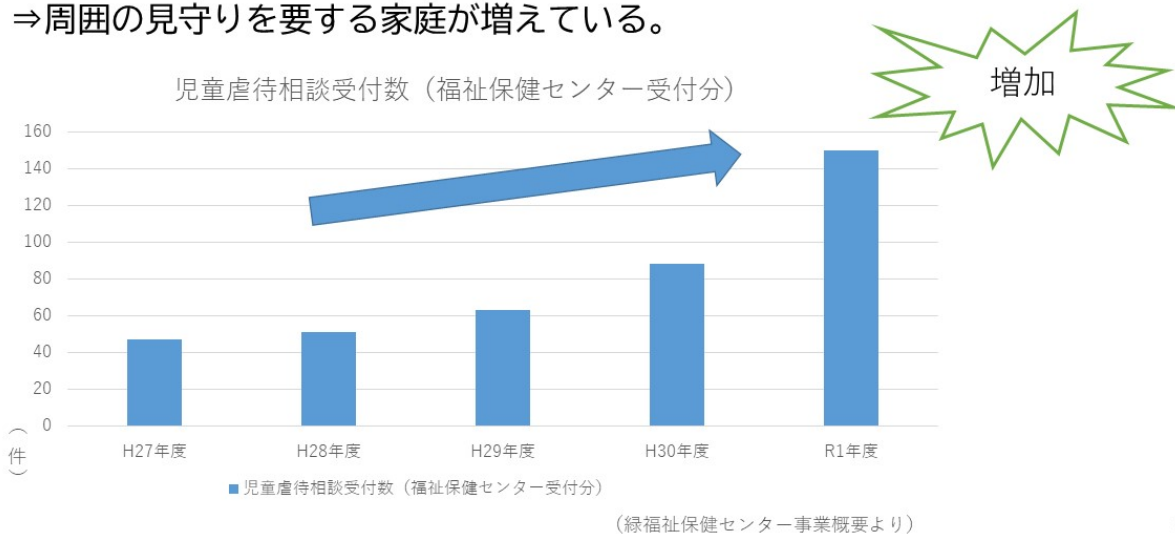
※療育手帳（愛の手帳）とは
児童相談所又は障害者更生相談所において
知的障害があると判定された方に交付される
ものです。



8

子どもを取り巻く状況⑤

区こども家庭支援課が対応する児童虐待件数の増加傾向
⇒周囲の見守りを要する家庭が増えている。



9

【皆さんと一緒に考えたいこと】

子どもたちにとって
住みよい緑区にするためにどうしたらいいか？

各活動団体に
聞いてみよう！！



10

子育て支援拠点
「いっぽ」



「いっぽ」とは？

未就学児とその親、またその子育て支援をする人
のための施設です！



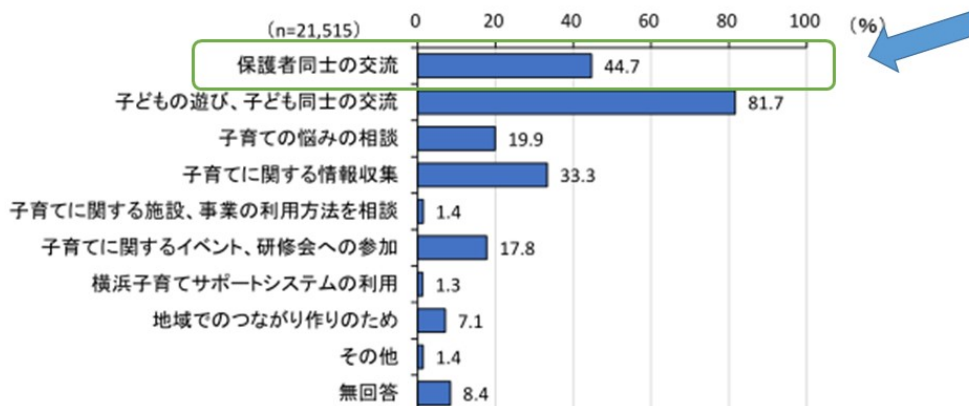
場所は…
住所：緑区十日市場街817-8
JR十日市場駅南口から徒歩3分のところにあります。

11

<子育て世代向けアンケート>
 地域の子育て支援施設の利用の目的は？

⇒「保護者同士の交流」の回答が多く、子ども同士の交流に次いで、当事者同士のつながりを求めていることが伺える。

図表 4-6-3 地域の子育て支援施設の利用目的【複数回答】



(出典) 横浜市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ把握のための調査（平成30年度、未就学児）

地域子育て支援拠点「いっぽ」の取組

- ・親子の居場所事業
- ・子育て相談事業
- ・情報収集、提供事業
- ・ネットワーク事業
- ・人材育成、活動支援事業
- ・横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業
- ・子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること



「いっぽ」は
子育てに関わる人たちのつながりを
持つ場を作っています！



コロナ禍での活動状況

「ひろば」はっぱの中にある、親も子も交流するための場です。

①工夫していること

- ・利用者には、入館前の検温・手洗い・マスク着用を依頼している。
- ・換気の徹底、1日2回のおもちゃの消毒等、感染対策を実施している。
- ・感染防止に努めながら、子育て中の親子が孤立しないよう、ひろばでの交流を促している。
- ・インスタグラム等、SNSを使って情報発信を強化している。
- ・外あそびのニーズが増えており、外あそびのプログラムの回数を増やしている。

②よかった点

- ・令和2年4月の緊急事態宣言中に、WEB上でアンケートを実施。そのアンケート結果を反映し、オンラインサロンの開催実施につながった。反響もあり、すぐに取り組を進められ良かった。
- ・インスタグラムやYoutube等を始めるきっかけとなった。

③課題・難しい点

- ・ひろばを「利用する人」と「利用しない人」の2極化が進んでいるように感じる。
- ・ひろばの利用がない人、いっぼとのつながりがない人への取組の周知に難しさを感じる
- ・オンラインサロンを企画しているが、当初に比べてなかなか参加者が増えない。

14

みほどんぐりの会



15

みほどんぐりの会

(平成30年4月から開始)



三保地区周辺に住んでいる親子が歩いていける場所に、居場所を作り、親子で楽しむイベントを開催しているサークル

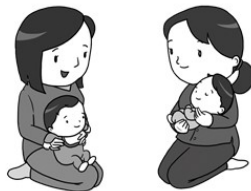
対象者：0歳～小学校入学前（主に未就園児）までの子どもと保護者

日時：第4木曜日 10時～11時30分

場所：三保自治会館等

参加費：1家族 100円（内容によって変更あり）

内容：季節のイベント、地域の方とのふれあいの会



16

活動を始めたきっかけ

【三保地区の未就園児を抱える保護者の想い】

「子育て支援拠点などが遠く、赤ちゃん教室ぐらいしか、同じ年頃の親子と関われる場所がない…。赤ちゃん教室を卒業しても、同じ年頃の子を持つ通し集える居場所がほしい」



【子育て支援拠点いっぱい 区役所の思い】

「子育て支援拠点や親子の広場、地区センターなどから離れており、未就園児の親子が歩いて行ける場所に居場所を作れたら…いや、作らないと！」



行政、社会福祉協議会、子育て支援拠点、自治会、保健活動推進員などのサポートのもと、母親たちが主体の親子サークルを作ろう！！

17

活動内容

こどもの日 七夕 夏祭り ハロウィン 運動会 クリスマス会
豆まき ひなまつり おはなしフェスタ おはなし会ママ向け講座

不定期で戸外、里山ガーデンピクニック プチ遠足
(こどもの国、ズーラシア、消防署見学など)



18

活動を行う上での工夫



運営形態の工夫

運営側と参加者の区別はなく、全員が参加者で運営者！
親子もボランティアも、みんなができることをできる範囲でやる。



活動を広める工夫

子育て支援拠点、区役所、子育て支援者会場、赤ちゃん教室、赤ちゃん訪問等でチラシの掲示や配布。みどりっこ広場での活動の紹介、活動の予定を掲載している。



地域と繋がる工夫

民生委員、保健活動推進員といった、子育て世帯とつながりのある地域の方にボランティアとして参加をしてもらう



19

活動による手応え、変化



参加者、ボランティア向けにアンケートを実施

参加者からは

- ・保健活動推進員さん、民生委員さんを中心に地域の方と関わってうれしい
- ・活動の担当になるとドキドキもしますが、準備など学生時代に戻ったようで楽しく、行った内容を子どもたちが喜んだり、楽しんだりしてくれると達成感を味わえる



- ・赤ちゃんや若い世代のママ達と関わる機会ができて嬉しく、パワーをもらえる
- ・孫が大きくなったから、小さい子どもと過ごせて癒される

ボランティアからは

といった声を頂いています。

20

コロナ禍での活動状況

(1) コロナ前と変更したこと・工夫したこと

- ・感染拡大の状況に応じて、密集が予想される内容の時にはオンラインで開催
- ・自治会館を利用する時は、窓を開けて換気を実施。
- ・参加する保護者とボランティアにはマスク着用を依頼



(2) よかった点・手応えを感じている点

- 参加者から次のようなご意見をいただいています。
- ・オンラインだと、自宅に居ながら他の人と（感染の心配がなく）安心して、お話ができ嬉しい。
 - ・以前会に参加していたOBの方とお話しができよかった。

(3) 課題・難しい点

- ・オンライン開催にあたっては会の進行に工夫が必要！！
- 進行者も子どもをあやしながら参加するため、思いどおりにはなかなか進行ができなかったり、参加者同士が十分に話すことが難しい部分があった。
- ・家族が在宅でテレワークをしていると、思い切った参加とはできず、気を使わざるを得ないこともあった。

21

地域の子育て力の向上のために…

- ☆ 親子と地域とのつながりができる場所になってほしい！
- ☆ 地域で活動してくださっている方に、
内容を知ってもらおうきっかけづくり
- ☆ 同じ地区に住む一個人として、子育て世代の保護者や
子ども達と同じ場を共有してもらいたい



22

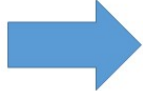
こどものいばしょ
こども村



23

活動を始めたきっかけ

地域の中で、こんなことが気になっていました…


 夫婦共働き等で、子どもたちが夜まで一人で
 過ごす時間が増えている…
 携帯、ゲームが普及し会話が少なくなっている

そういった子たちと、近所のおばさんが一緒に過ごせたらと思ひ、周りの人達へ発信してました！



24

活動を始めたきっかけ

地域に気になる子がいる…
何かできないか。

新治西部地区



十日市場団地地区

区役所によるマッチング

十日市場駅周辺 こどもの居場所づくり
検討委員会が立ち上がる



地域でたくさんの方が同じ思いであったことを、
区役所がケアプラザ、社会福祉協議会、学校等と
つないでくれて、「十日市場駅周辺こどもの居場所
づくり検討委員会」が立ち上がりました。

こども村 誕生 (平成30年12月)

25

平成30年7月26日
第1回「十日市場駅周辺こどもの居場所づくり検討委員会」



今の子ども们的状況は？
どんな「居場所」が必要？
何をする？
周知はどうやって？
などを、検討委員会で話合いました。

平成30年12月1日
イベントを実施

→ 地域子どもたちに居場所を作っていく
ことを、イベントで知ってもらおう！



参加した子どもたちの投票により
居場所の名前を

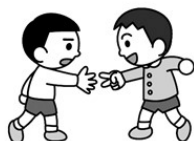
こども村 に決定

活動の様子

子どもが一人で来ても大丈夫。自由に遊んだり、
宿題をしても好きなことをして過ごしてもらおう居場所。

対象者：十日市場駅周辺の小学生
日時：第2、4水曜日（15時～17時）
場所：十日市場地域ケアプラザ
参加費：無料

夏休みや春休み等、イベントも行っています。



工夫していること

①子どもたちが自由に過ごせるよう、何をするかは参加する子どもたちが決める

手芸 お絵かき カードゲーム オセロ 人生ゲーム等
来てすぐに、宿題をしてから遊ぶ子ども。



②スタッフは、子どもたちと同じ目線で過ごす

時には我が子、時には孫、いろんな感覚です。

ゲームでは、子どもたちが先生となり教えてくれることも多いです。

盛り上がりすぎて大騒ぎする子、仲間に入れない子、けんかを始める子
→ スタッフが、ゆっくり話を聞き、対応しています。

活動後、参加した子で気にかかる子、心配な子のことを共有し話し合いをしています。

28

活動による手応え、変化

参加している子どもたちは

- ・一人ひとりと接するので、今感じていること、思いを表に出してくれるようになった
- ・乱暴な言葉遣いの子ども、少しずつ落ち着いてきている
- ・将来の夢を語ってくれる子どももいる
- ・スタッフに道端で会った時、挨拶をしてくれる子どもが増えた

スタッフは

- ・子どもたちの変化を感じ地域の中で、子どもが安心して過ごすことができる居場所の必要性を再度確認



29

地域の子育て力の向上のために…

近所にお住まいの子たちへ
声をかけてほしい



「いってらっしゃい」 「元気だね」 「気を付けてね」 など

今、この緑区で育った子どもたちが、将来親になっていきます。
緑区で育ってよかったと思う子が増えると、地域も元気になっていきます。

もっと、たくさんの子たちに来てもらいたい！
もっとたくさんのボランティアに来てもらいたい！

30

コロナ禍での活動状況

「子どもたちと同じ目線でコミュニケーションをとる」
という理念は変えない。

(1) 工夫していること

- ① 感染防止対策
 - ・「手洗い」「消毒」「検温」「3密防止」
 - ・使用する道具は、都度消毒するか、使い捨てのものに変更。
- ② 制限がある中での工夫
 - ・子どもたちに「いつもと違う形で遊ぶよ」と前もって説明して活動する。
 - ・共通した話題が持てるよう、子どもたちの生活スタイル・語彙力にあわせて、会話を広げていける遊び方を模索している。



(2) 良かったこと

- ・コロナ禍での子どもたちの生活の様子を直接聞くことができた。
- ・これまでは当たり前に使っていたおもちゃが無くても、紙やペンだけでも十分会話が楽しめる。
- ・ボランティアの思い出話を子どもたちに話すことで、子どもたちもボランティアも楽しんでいる。

家族の話をしている時は笑顔！

(3) 今後に向けた課題

- ・新たな遊びを導入した際に、個々の子どもたちにとって得手・不得手があり、どのように一人ひとりに寄り添って対応していくか…。
- ・遊びの中で「字が上手く書けない」「言葉が上手く表現できないこと」へのフォローをよりきめ細やかに実施できれば…。

31

よりみち学習広場



32

よりみち学習広場

(活動開始は平成27年

子どもたちへの支援開始は平成28年1月から)



寄り添い型の学習支援。小学生は算数を中心に、中学生は英語・数学を中心に理解が深まるように行っている。

対象者：小学生、中学生

日時：① 毎週水曜日 15時～16時45分 (小学生) 18時～ (中学生)

② 毎週月曜日 14時～17時の間で1時間半

場所：① 東本郷地域ケアプラザ ② 東本郷小学校コミュニティーハウス

参加費：無料

内容：算数・数学・英語のプリント学習



33

活動を始めたきっかけ

- ① 何らかの事情で学習が遅れた児童・生徒が学校へ通うようになっても自分の力だけでは中々授業についていけず学習意欲の足かせになっている。
- ② 子どもたちは成長過程で周囲の環境に大きく影響を受け、様々な困難の中で成長すると学習環境も劣悪になる場合も多く、心身の成長も十分にできないことも起こる。



子どもたちが学習行動を自立出来るようになるまで支援し、不登校等を解消し通常の学校生活に戻れるように見守って行きたい。

34

活動目標

1. 小・中学校において不登校であった生徒の学習を通常の授業の理解ができるまで支援する。
2. 何らかの事情で授業に遅れた児童・生徒の学習を支援し遅れを取り戻す。
3. 学校や家庭で居場所のない子が落ち着ける居場所を作り、子ども達の健全な成長を支援する。

35

活動を行う上での工夫

～よりみち学習広場の特徴～

- 1 宿題・算数・数学・英語を中心に個別に学習支援
- 2 子どもたちと同じ目線で学習
- 3 勉強の後はお話し・ゲーム・お菓子タイム
- 4 ゲームなどを通して子どもに自信を持たせる
- 5 教える側は単なる先輩 (～先生ではなく、～さん)



- ・ テキストや記録を充実させ、誰でもどの子にも対応できるようにしている (支援者が休み易くしている)
- ・ 子どもに注意はするが怒らない
- ・ 子どもの居場所作りを意識して運営
- ・ 学習支援者の研修を継続している
- ・ 季節ごとに楽しいイベントを実施

36

活動の様子



初期のよりみち学習広場

当初は会議室が使用できず、東本郷地域ケアプラザの談話コーナーを優先利用させていただき開始した。



個別指導が基本



37

学習のための準備



- 積み木様ブロック



- 分数キット

ブロックや分数キットをいじりながら算数の感覚を自然と学ぶ

学習後の楽しみ



ゲームをしながら自分に自信を持つ

38

地域との連携

1. 夏休み学習会

希望する小学生・中学生を対象に夏休み勉強会(宿題教室)

2. 夏休み理科の実験教室

小学生を対象に実験教室(おもしろ科学探検工房と連携)

参加者全員で楽しく食事会



← 夏休み理科の実験教室



↑ 夏休み学習教室

39

活動による手応え、変化

- ✓ 少しずつ自分に自信を持てるようになってきたと感じられる
- ✓ みんなと一緒に仲良くトランプをしたり、お菓子を配ったりする
- ✓ たまにしか学校へ行っていなかった子が普通に登校するようになった
- ✓ 乱暴な行動に対する周囲からのクレームが減った

学習面でも…

- ・ 掛け算九九ができるようになった
- ・ 2桁のわり算ができるようになった
- ・ 分数ができるようになった



40

コロナ禍での活動状況

令和2年3月の緊急事態宣言発令中、活動している場も休会せざるを得ない状況となった

(1) 工夫していること

- ① 感染防止のため、換気、手指消毒、スリッパ持参、マスク着用を徹底。部屋の人数も少なくした。また、共有の道具を利用する時は、手袋をしている。
- ② ホワイトボードを使用し、距離を取り教えるよう工夫している



(2) 手応え

コロナ禍でマンツーマン指導の機会が増え、きめ細やかに指導することができている。

(3) 課題

令和3年1月の緊急事態宣言発令に伴い、再度会場に利用の制限が設定され、小学生向けについては、再度休会…。どうしても会場の利用制限の影響を受けてしまう。

➡ 子どもたちのため、昼間利用できる場所が欲しい。

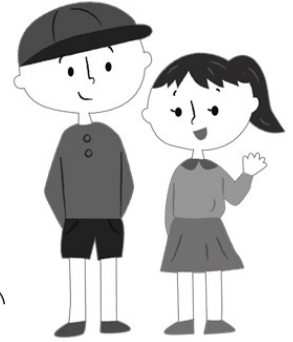


41

地域の子育て力向上のために…

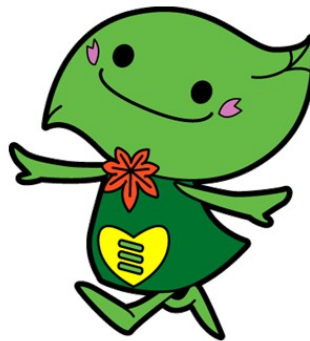
こどもたちの居場所がほしい（家や学校以外の居場所）

- ☆ 子どもたちがゆっくり（ゆったり）できる場所
- ☆ 子どもたちが宿題や勉強できる場所
（解らないところを教えてくれる大人）
- ☆ 子どもたちが遊べる場所（室内）
- ☆ 大人が隣の部屋でお茶を飲んでいたりしてもよい



42

まとめ

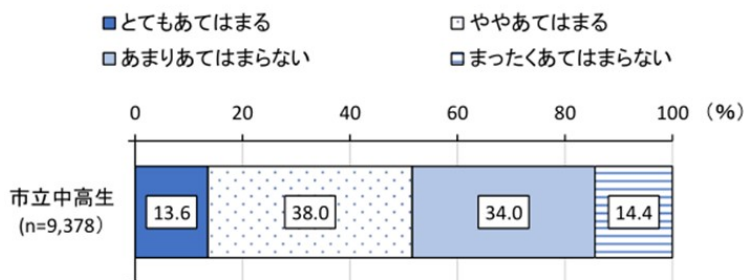


43

子どもを取り巻く状況⑦-1

自己肯定感が低い

図表 4-2-1 自分のことが好きである（市立中高生）

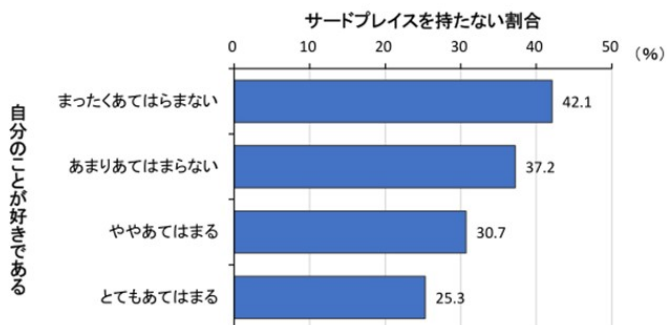


（出典）横浜市「中高生の放課後の過ごし方や体験活動に関するアンケート調査」（平成30年度）

子どもを取り巻く状況⑦-2

自己肯定感が低い子どもは（学校・家庭以外の）「第三の居場所」を持っていない
 ⇒ 第三の居場所は子どもの自己肯定感の向上に期待できる。

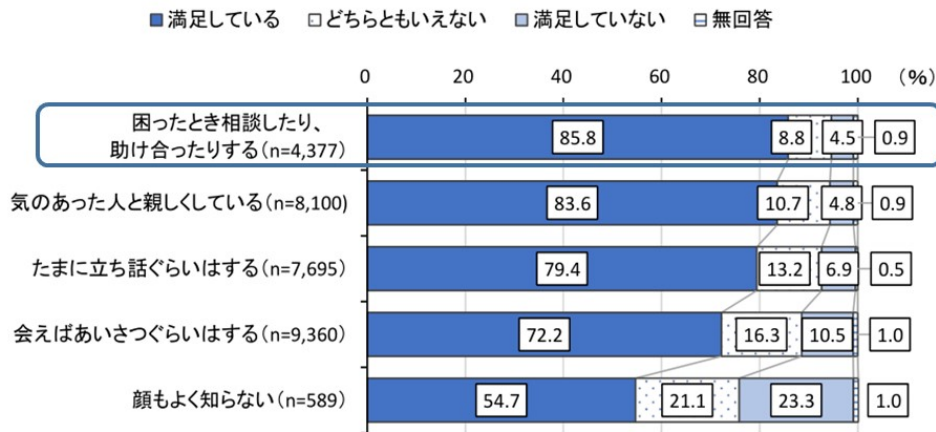
図表 4-2-2 自分のことが好きである程度とサードプレイスを持たない割合(※)



(※)「サードプレイスを持たない割合」：居場所がない、又は単一の居場所しか持たないと回答した割合
 (出典)横浜市「中高生の放課後の過ごし方や体験活動に関するアンケート調査」（平成30年度）

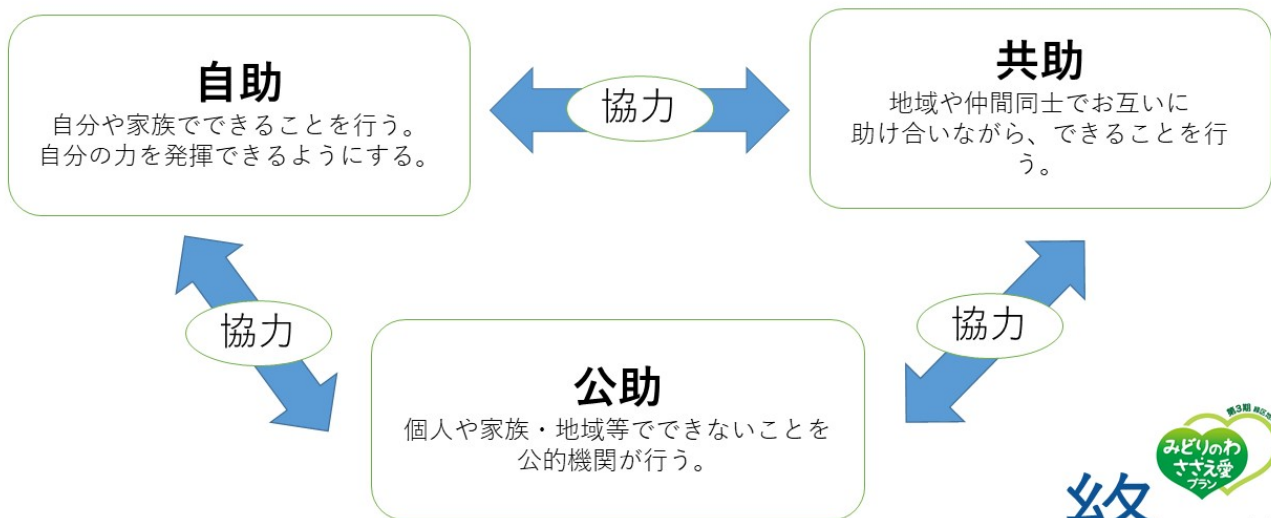
地域に支えられる子育て環境は 保護者にとっても非常に心強い！！

図表 2-19 近所の人との付き合い方別の子育ての満足度



(出典) 横浜市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ把握のための調査 (平成 30 年度、小学生)

社会全体で取り組む子ども・子育て支援 に取り組んでいきましょう！！



「第1期横浜市子ども・子育て支援事業計画P.33」参照



● 地域ケアプラザ・地域包括支援センターについて

地域ケアプラザとは

高齢者、子ども、障害のある方など誰もが地域で安心して暮らせるよう、身近な福祉・保健の拠点としてさまざまな取組を行っている、横浜市独自の施設です。

緑区では6つのケアプラザと1つの地域包括支援センターがあります。令和3年4月にふじ寿か園地域包括支援センターが、山下地域ケアプラザとなり、緑区では7つのケアプラザとなります。

地域包括支援センター

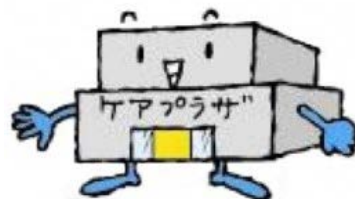
介護保険に限らず、高齢者に関する総合的な相談を、専門職がお受けします。

生活支援体制整備

高齢者が地域で自分らしく暮らし続けることができるように、生活支援、介護予防、社会参加の充実した地域づくりをすすめます。

地域活動交流

赤ちゃんから高齢者まで、すべての方と対象に、お部屋の貸出しや講座の開催、ボランティア活動の相談・支援を行っています。



その他、居宅介護支援事業所、通所介護を行っています。

● 東本郷地域ケアプラザ

皆さんの生活を一変させたコロナウイルス渦の中での、新たな取組を紹介します。

<新たなつながり方へのチャレンジ>

「お家でできる簡単体操」

動画配信

不要不急の外出自粛が求められた緊急事態宣言下、体力低下を防ぐ目的に、ホームページでの動画配信を行うとともに、同じ内容の印刷物を発行、配布を行いました。



ハイブリット

参加型相談会

行政書士の相談会を会場とWebの2通りの参加方法で実施しました。

<皆が分かち合い、必要な人に必要なものを届ける>

お米の配分

年越しにあたり、12月に地域の皆さんや緑区社会福祉協議会の協力を受け、ご要望のあった方々にお米を配分しました。

●鴨居地域ケアプラザ

コロナ禍でもつながる“モノ”づくり

鴨居地域ケアプラザ 13周年記念動画
～つながろう、今～

人と人の接触が控えられるコロナ禍で、こんなときだからこそ～つながろう、今～をテーマに新たなつながり方を模索し、動画を通じた交流に取り組みました。ケアプラザ祭りに協力頂いていた団体に出演を依頼し、インタビュー動画を YouTube で配信。動画の上映会も開催しました。『歴代所長対談編』では地域の方へのメッセージなどを発信しています。



あなたに知ってほしいから
『鴨居地域ケアプラザ 人生すごろく』

コロナ禍でも『ケアプラザのことをもっと知ってほしい』という思いから、このすごろくは生まれました。みんなですごろくを楽しみながら『赤ちゃんから高齢者まで』鴨居地域ケアプラザはいつもあなたのそばにいたいことを知っていただきたいです。

●中山地域ケアプラザ

自主事業は内容、人数制限をして実施しました。アコーディオンの音に合わせて60名で大声で歌う「歌声ハーモニー」も中止していましたが、7月から「アコーディオン演奏会」として少人数で再開しました。歌う事はできないけれど、久しぶりに講師やお仲間に会えて嬉しそうでした。



エリアのケアマネジャー事業所へ訪問して「サービスBの出前勉強会」として、サービスBの説明を行いました。サービスBの活動内容を知ってもらう事で、ケアマネジャーが実際に活動を見学するきっかけとなり、サービスBとケアマネジャーを繋ぐことができました。



地域活動ホームあおぞらの皆さんが、散歩レクの途中で中山地域ケアプラザに寄って紅茶ボランティアさんが淹れた紅茶を楽しんでいただく「あおぞらカフェ」。試行錯誤し、ポットに入れた紅茶をケアプラザの入口で手渡す、という方式に変えました。お手紙を添えたり、繋がりを大事にしています。



地域のボランティアさんが、YouTube動画「NAKAYAMA 地域子育てチャンネル」を立ち上げました！やまちゃん・ありちゃんがコロナ禍でも、おうちで楽しめる遊びを沢山紹介しています。ぜひご覧ください！



●地域包括支援センターふじ寿か園



お茶べりサロン☆山下

今年度は、サロンの開催が難しかったが、10月の天気のいい日に青空サロンを開催しました。藤棚の下で、近況報告をし、脳トレをみんなでしました。久しぶりの再開に皆さんよろこんでいました。集まることのできない月は、脳トレ体操やクイズなどの冊子を配布しています。



山っばれ塾（エンディングノート書き方講座）

エンディングノート書き方講座を全8回で予定をしていましたが、1月は中止となりました。毎回、テーマが決まっております。講師の先生をおよびして2時間半の講座はアツという間です。好評でほぼ全員が毎回参加しています。

●十日市場地域ケアプラザ

今年度は新型コロナウイルス感染対策や空調設備改修工事に伴い、10月19日までボランティアコーナーのみの貸室開館となっていました。

自主事業については、感染対策を図りながら、人数制限、申込制などを取り入れて開催しました。今年度の取り組みとして、現在の暮らしの家計状況、お金の使い方の見直しのヒントを学ぶ講座として、「見直してみよう！お金のつかい方」を開催。元気づくりステーションの担い手の方々に向け、新型コロナウイルス対策の周知と自宅でする体操の実践を学ぶ講座として、「元気づくりステーションの効果と今日からできる体操講座」を開催いたしました。

また、「こども村」「笑顔をつなぐ食支援」を地域と連携を図りながら開催し、「お茶飲み会」「元気づくりステーション」などの再開に向けた支援を行いました。

暮らしを守る講座

見直してみよう！ お金のつかい方

日時：令和2年11月30日（月） 13:30～15:00

場所：横浜市十日市場地域ケアプラザ 2階 多目的ホール

講師：株式会社法人と性自の命 理事長
一般社団法人NTSセーフティ家計総合研究所 カウンセラー
緑区家計助典 有田 宏美氏

内容：普段の家計の見直し方

対象：興味のある方 先着30名（事前申込制）
※定員いっぱいになったらお申し込みできません

参加費：無料

持ち物：筆記用具・マスク・飲み物（お茶など）

<お申込み・お問合せ>
横浜市十日市場地域ケアプラザ 【地域交流活動・地域包括支援センター】
TEL 045-985-9034



元気づくりステーションに参加されている皆様へ

元気づくりステーションの効果と 今日からできる体操講座

11月30日（月）10:00～11:30
十日市場地域ケアプラザ 多目的ホール

【タイムテーブル】

- 9:45～10:00 受付・休憩室・体操準備
- 10:00～10:30 GOGO健康！コロナ対策！ハートアップ！
横浜市場地区運動・福祉交流講座
- 10:30～11:30 椅子に座ってできる体操講座
やさしいYOGA 見塚由代氏
企業生活習慣コンサルタント
介護予防運動指導員、ヨガインストラクター

【持ち物】

- ・マスク
- ・タオル（運動に使用）
- ・飲み物

※乗降の際に自宅で体調測定をお願いします。

十日市場地域ケアプラザ
地域交流活動
包括支援センター



●霧が丘地域ケアプラザ

霧が丘地域ケアプラザの取組

《霧が丘まちともプラン》

「いきいきと暮らす」「仲間とつながる」「学んで備える」「安心して暮らす」をテーマに、介護予防・仲間づくり・ボランティア活動支援・生活支援体制整備事業に力を入れ、誰もが住みやすい霧が丘をめざしています！

今回はコロナ禍における取組みをご紹介します。

○ストックフォトコンテスト・霧が丘川柳コンテスト
撮りためた中にある自慢の1枚や霧が丘地域に関する川柳を応募していただきました。ケアプラザのホールにて掲示し、来館者の皆さんに投票していただき、優秀賞を決定し表彰しました。

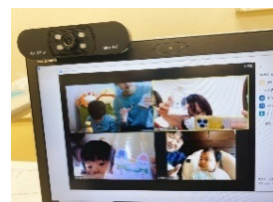


○うたごえサロン

歌うことで飛沫が飛ぶことから、事業を再開することができませんでした。そこで、先生にアコーディオンの演奏をしながら歌ってもらい、それをYouTubeで配信する『おうちでうたごえサロン』を開催しました。

○もくもくひろば（子育て支援事業）

もくもくひろばをZoomで開催し、スノードーム工作やキャラ弁作りなどを行いました。Zoomを介し、歌ったり手遊びをしたりして、参加者同士で交流をしました。



●長津田地域ケアプラザ

令和2年度はコロナ禍で、殆どの事業が中止となりました。その中で、「今、地域に必要なことは何か」を検討した結果、コロナ禍で収入が減ったことにより食事に困っている方に対して食支援を行うことになり、計3回実施しました。

食支援を行う上で配分する食品を集めなくてはなりません。長津田地区全体に呼びかける必要があると考え、長津田地区自治連合会、長津田地区社会福祉協議会、長津田地区民生委員・児童委員協議会の御協力をいただきました。第1回では50名の方より570個の食品が集まり、各回多くの寄付をいただきました。

配分会は、第1回は学生を対象として行いましたが、第2回以降は学生以外の方にも対象を広げました。各回約30名の方々に配分できました。

食支援を受けた方にはアンケートを実施し、食事に困っている状況が把握できた他、地域の方々への感謝のメッセージを受け取ることができました。その中には、「長津田に住んでいて良かった」「地域の方に支えられていると実感することができた」と、食支援による「地域の支え合い」の一端を見ることができました。

この食支援は、コロナ禍における長津田地区別計画推進組織（向こう三軒両隣とともに支え合うまちづくり運営委員会）の重点活動にも位置づけられており、地域の力を得ながら更に「地域の支え合い」を進めていきます。



● 緑区社会福祉協議会の主な取組

緑区社会福祉協議会では「区域計画」の推進について、区役所及び地域ケアプラザと共に、全地区での地域課題の解決に向け様々な取組を行っています。令和2年度の取組の一部を紹介します。

新型コロナウイルスに負けるな！地域活動応援プロジェクト

緑区社協では「新型コロナウイルスに負けるな！地域活動応援プロジェクト」としてコロナ禍でもつながり続ける地域の取り組みを応援しました。取り組みの一部を紹介します。

● ハガキ DE つながりプロジェクト

「ハガキ」を活用して、活動がお休み中でもボランティア同士・利用者とのつながりを感じてもらう取組です。緑区ふれあい助成金・緑いきいき助成金の団体やボランティア分科会所属のボランティアグループをはじめ、区内で活動している市民活動団体等、趣旨に賛同していただける団体に区社協からハガキを無償で提供しました。（郵送で送る場合は切手を貼る）ハガキ裏面のイラストは霧が丘にあるNPO法人ふかぶかで活動する障害のあるメンバーが描いたものを印刷しました。

● 緑区医師会協力 動画配信

緑区医師会会長二宮浩先生に出演いただき、コロナ禍での地域活動の留意点と横浜市内で行われている「ドライブスルー式PCR検査」についてお話していただき、YouTubeで配信しました。



● こんな時だからこそ、再確認！「ボランティア活動は私たちのまちの宝物」リーフレット配布

横浜市社会福祉協議会作成のコロナ禍での地域活動の意義・できることをまとめたリーフレットを配布しました。（活動を行う上でのチェックリスト付き。横浜市社協のホームページからダウンロードできます。）

他にもアルコールの手に入りにくい時期に消毒液を一括して購入し、希望するボランティアグループなどに配布し、利用していただくなど、つながりが途切れないために活動を支援しました。

白山防災座談会 ～「今日、みんなで防災・災害について考え、明日から行動しよう」～

連合自治会の防災活動、民生委員・児童委員による災害時要援護者支援活動への関心が非常に高い白山地区での活動をより発展・拡大させていくために、区社協として「白山防災座談会」を開催しました。

「災害時要援護者」と呼ばれる当事者の人たちの困りごとや心配事について、地域活動者（自治会長、民生委員、地区社協等）と共有する機会・場をつくり、地域として、また住民一人ひとり何ができるかを考えるきっかけづくりとなりました。

地域で暮らす障害のある当事者や家族から「災害時に気になっていること、心配なこと」や「最近の発災時のエピソード」を、また地域活動者からは、自治会や民生委員等の取組を説明していただきました。参加者全員に「明日から“防災”について自分自身でやろうと思うこと」という質問をしたところ、「災害時も普段と変わらない生活ができるように準備しておく」「自治会、隣近所が最後には頼りになるので日頃から挨拶をしたり、防災訓練には積極的に参加するように周りの人に勧めていく」などの意見が出ました。

発災時に「助けて」と言える顔見知りを普段から近所につくる、そのきっかけづくりを今後も緑区社会福祉協議会では続けていきます。

ぺこぺこネットワーク（生活困窮者等への「食」を通じた生活支援事業）

●生活困窮者（世帯）等への一時的・緊急的支援

生活にお困りの方（世帯）等へ1回につきおおむね1週間程度の食糧をお渡しし、一時的・緊急的な食支援を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響で食支援の利用者（世帯）が昨年度に比べて、多くなっています。また生活福祉資金特例貸付から食支援の利用につながる世帯の中では外国籍の方も多くなっています。

【令和2年4～12月利用実績】

実利用人員：27名（世帯） 延べ食支援回数：73回

※このうち、外国に關係する世帯：5世帯、ひとり親世帯・未成人の子がいる世帯：10世帯

●ぺこぺこネットワークのロゴマーク完成

神奈川県立白山高校美術部の生徒の皆さんにぺこぺこネットワークのロゴマークを考えてもらい、多くの作品の中から右記マークに決定しました。このマークは、フードドライブののぼり旗や食品の寄付をしてくださった方へのお礼の缶バッジ等にて使用しています。



●お米の定期便配分

区内の自治会や個人の方より多くのお米の寄付をいただいたため、これまで食支援を行った方（世帯）やひとり親世帯の方々を対象として、お米の定期便として2kgまたは3kgの精米を1カ月に1回お渡ししました。



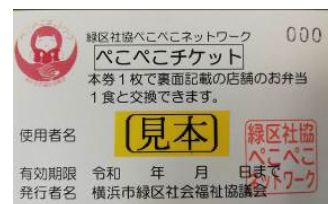
●セブンイレブン（株）の寄付品を活用した生活困窮世帯向けの「配分会」

セブンイレブンから受付した寄付品をこれまで食支援を行った方（世帯）を対象に、主に日用品を中心とした配分会を行いました。7世帯の方々にご参加いただきました。

●ぺこぺこチケット

区内の協力いただけるお弁当屋さん（現在は区内3カ所）で1枚につき1個を交換できるチケットを1週間に1回分（世帯人数分）をお渡しする取り組みです。

この取り組みは、令和2年12月から開始し、今後協力していただける店舗を増やしていく予定です。1週間に1回はあたたかいお弁当を食べて欲しいという想いから、この取組を始めました。



●フードドライブ（食の寄付運動）～「もったいない」を「ありがとう」へ～

令和2年度は、募集強化期間を年4回設定し、緑区社協以外の区内地域ケアプラザや地域子育て支援拠点いっぼや竹山団地内のふれあいさろん竹多久等でも受付し、多くの食品の寄付が集まりました。

●関係機関との連携

フードドライブ以外にも、各地域ケアプラザが地区の各団体と協力して実施した食支援に関する配分会へ協力するとともに、緑区社協の場所が遠くて来所できない方に対して、近くの地域ケアプラザなどで食品等をお渡しするなどの連携を進めました。

ぺこぺこ110番（食支援専用電話）：045-938-5988

※明日食べるものに困っている方のための専用電話です。必要な方がいればご連絡ください。

● 緑区役所の主な取組

緑区役所では、令和2年度緑区政運営方針において、「次世代につなぐ みんなにやさしいまち～「ふるさと みどり」」を基本目標とし、その達成に向けた施策として、「安全・安心なまち」、「いきいき暮らせるまち」、「みどりの魅力あふれるまち」の3つの柱を掲げました。第3期みどりのわ・ささえ愛プランについても、区政運営方針に位置づけて進めています。今年度の主な事業の実施状況を紹介いたします。

なお、実施にあたっては新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、取組形態を見直す等工夫をしました。

1 安全・安心なまち

(1) 災害に強いまちづくり

地域防災拠点情報共有会を9月に開催し、新型コロナウイルス感染症を踏まえて避難所開設・運営のポイントの説明を行いました。共有会においては、地域防災拠点での避難者スペースの間仕切り等の運用について運営委員と意見交換を行いました。

また、近年発生している災害を踏まえ、震災及び風水害の際の避難行動について、広報よこはま6月号にて「保存版 緑区避難行動（安全確保マニュアル）」を配付し区民向けに広く啓発を実施しました。



(2) 安全・安心な環境づくり

特殊詐欺防止のための簡易型自動録音機（※）を緑警察署及び区役所窓口にて高齢者向けに配布しました。

（※）機器を電話機に設置すると、電話を受けたとき、警告音声を再生し、電話をかけた側の会話内容を録音します。

(3) 暮らしの衛生の推進

災害時のペット対策として、同行避難や日頃からの備えについて、飼い主向けペット防災啓発講演会（7月）の開催や地域防災拠点運営訓練での啓発を行いました。引き続き、災害時のペット対策の重要性を伝える機会を設けていきます。

2 いきいき暮らせるまち

(1) 第3期「みどりのわ・ささえ愛プラン」の推進

今年度は第3期プランの最終年度であるとともに、第4期プランの策定を進める予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、多くの地区別計画推進策定委員会やプラン推進策定委員会の開催を見合わせたため、引き続き令和3年度にかけて第4期プランの策定を進める予定です。

(2) 妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援

地域全体で子育てを見守り支える環境づくりを進めるため、過年度から引き続き、関係機関・団体とのネットワークの活性化を図る「みどり子育て支援連絡会」（オンライン開催）、児童虐待防止に向けた要保護児童対策地域協議会の実務者会議（1回）を開催しました。また母子保健コーディネーターを新たに配置し妊娠中から産後の支援を強化しました。

(3) 地域における青少年の育成

子ども達がまちづくりに携わる楽しさを知るきっかけを作るため、子ども達が自らまちをつくり・運営するイベント Mini Mini Midori ですが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、イベント開催を見合わせたため、次年度のイベント開催に向けた「子どものまち PR 作品」を Zoom を活用しながら制作しました。

(4) 高齢者・障害者施策の推進

認知症及び障害者理解の普及啓発の取組として、広報よこはま9月号で「認知症」、同2月号で「障害者理解」をテーマとした特集記事を掲載しました。9月号では、認知症の症状や相談機関・認知症サポーターの紹介等、2月号では、地域で活躍する障害のある人の活動や地域の事業所の紹介等を取り上げました。

(5) 外国人との共生

横浜市では、市内在住の外国人のための生活情報提供、相談を多言語で実施するとともに、日本語教室の開催、通訳ボランティアの派遣、日本人との交流活動などを行うため、国際交流ラウンジを設置しています。緑区では令和3年3月7日に、NPO 法人の運営による「みどり国際交流ラウンジ」を中山駅北口に開設しました。

(6) 生涯にわたる健康づくりの推進

健康寿命延伸を目指した取組として、思いやり健康づくりの日の取組として健康チェックなどを7月に実施しました。

また、「食」を通じた健康づくりを推進するために、「食べることと噛むことを考えよう」等をテーマにした食育の日キャンペーンを8・10・12月に実施しました。キャンペーン当日には、朝食の大切さに関する啓発パネルを展示したほか、災害時でもバランスよく食べるための食の備蓄の重要性を周知するため、リーフレット及び給水バッグを配付しました。

(7) 暮らしのなかのセーフティネット

生活困窮者の自立に向けた支援として、支援を必要とする人の早期把握や、自立した生活を支えるためのネットワーク構築を目指しています。地域ケアプラザ等と協働し、9月から2月にかけて計5回「家計に関する講座」を区民向けに開催しました。

また、寄り添い型学習支援事業を継続実施するとともに、令和3年2月から寄り添い型生活支援事業を開始しました。

3 みどりの魅力あふれるまち

(1) みどりの魅力を活かした地域活性化

区の魅力再発見のため、緑区ガイドボランティアの会にガイドを依頼し、緑区遺産ガイドウォーキング（11月、12月）を実施するとともに、緑区ならではの地産地消の魅力を発信するため、「夏野菜と出会うトウモロコシ収穫体験（7月）」「親子で菊芋収穫体験」（11月）等を実施しました。

また、視覚的・直観的なアートによる区の魅力発信のため、「山下学舎文化祭」を開催しました。昭和17年に建築された木造校舎を活用した山下地域交流センターを舞台に、資料室に眠っていた黒板や古い農機具などを活用したアート作品を制作・展示し、作品の制作風景や映像作品などを特設WEBページで配信しました。



(2) 環境行動の推進

国立研究開発法人国立環境研究所の五箇公一氏を講師に招いて「地球温暖化問題とわたしたちの生活にできること」と題した生物多様性講演会（2月）をZoomにて開催しました。また、講演会で緑区内にある5つの市民の森・ふれあいの樹林及び愛護会の活動を紹介する映像を放映しました。

(3) 地域の現状を踏まえたまちづくり

住民が主体的に取り組むまちづくり活動のうち、山下地区の安全・安心まちづくりプランの改定を支援しました。改定にあたっては、地区におけるまちづくり委員会で議論するとともに住民からの意見募集により合意形成を図り、12月に市から認定を受けました。

(4) 地域力の推進と市民活動の支援

今年度もみどり「ひと・まち」スクールを開講し、10名の受講生が地域活動について学び、それぞれの夢プランを発表しました。人数制限によって会場に来られない修了生にはWeb会議システム（Zoom）を用いた視聴や双方向でコミュニケーションを図る工夫を行いました。

また、区内の地域施設職員を対象としたWeb会議システム（Zoom）操作に関する研修を実施し、コロナ禍での市民活動を支援しました。

緑区内の地域ケアプラザ

誰もが住み慣れたまちで、安心して暮らせる地域をつかっていくための拠点として、地域の福祉・保健活動を支援し、福祉・保健サービス等を身近な場所で総合的に提供する施設です。



★東本郷地域ケアプラザ

〒226-0002 東本郷5-5-6
☎045-471-0661 FAX045-471-0678



アクセス

JR鴨居駅からバスで。「東本郷地域ケアプラザ前」「東本郷町」「泉谷寺団地前」バス停下車。

★鴨居地域ケアプラザ

〒226-0003 鴨居5-29-8
☎045-930-1122 FAX045-931-2203



アクセス

JR鴨居駅からバスで。「鴨居町バス停」下車。徒歩で約10分

★中山地域ケアプラザ

〒226-0019 中山2-1-1 (ハーモニーみどり内)
☎045-935-5694 FAX045-935-5695



アクセス

中山駅（JR・市営地下鉄）から徒歩7分

★山下地域ケアプラザ

〒226-0002 北八朔町218-13
☎045-931-6275 FAX045-935-3883



アクセス

中山駅（JR・市営地下鉄）からバスで。「寒谷戸」バス停下車。市営地下鉄川和町駅から徒歩20分

※令和3年4月1日開所

★十日市場地域ケアプラザ

〒226-0025 十日市場町825-1
☎045-985-6321 FAX045-985-6325



アクセス

JR十日市場駅から徒歩3分

★霧が丘地域ケアプラザ

〒226-0016 霧が丘3-23
☎045-920-0666 FAX045-922-6611



アクセス

JR十日市場駅からバスで。「中丸入口」「萱場公園入口」バス停下車。

★長津田地域ケアプラザ

〒226-0027 長津田2-11-2
☎045-981-7755 FAX045-981-7575



アクセス

長津田駅（JR・東急）北口から徒歩5分

<編集・発行>

横浜市緑福祉保健センター 福祉保健課 事業企画担当

〒226-0013 横浜市緑区寺山町 118

電話 045-930-2304 FAX 045-930-2355

電子メール md-fukuhoplan@city.yokohama.jp

社会福祉法人 横浜市緑区社会福祉協議会

〒226-0019 横浜市緑区中山 2-1-1 (ハーモニーみどり内)

電話 045-931-2478 FAX 045-934-4355

電子メール info@midori-shakyo.jp

Web <http://www.midori-shakyo.jp/>



プランの詳細は、ホームページをご覧ください。

[みどりのわ・ささえ愛プラン](#)

[検索](#)

第3期 緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」

令和2年度 推進状況報告書

<2021 [令和3]年3月発行>



みどりのわ・ささえ愛プラン